

平成 24 年度

栃 木 県 政 世 論 調 査

結 果 の 概 要

平成 24 年 10 月

栃 木 県

目次

I	調査の概要	1
II	調査の結果	
1	暮らしの変化について	
(1)	暮らしの変化	2
(1-1)	暮らしが悪くなった理由	3
(2)	暮らしの満足度	4
(3)	今後の暮らしの状況	5
(4)	今後の暮らしで力を入れる点	6
2	県政への要望について	
(1)	県政への要望	7
3	日常生活について	
(1)	社会貢献活動の参加状況	9
(2)	芸術・文化活動について	10
(3)	スポーツ活動について	11
(4)	住んでいる地域について	12
(5)	とちぎの元気な森づくり県民税について	13
4	広報・広聴活動について	
(1)	県政情報の入手手段	14
(2)	「とちぎ県民だより」の閲読状況	15
(3)	とちぎテレビの県政番組の視聴状況	16
(4)	県ホームページの利用状況	17
(5)	県政情報で関心のあるもの	18
(6)	県に対する意見・提案等を行うときの手段	19
5	東日本大震災を経験しての県民の防災意識について	
(1)	災害対策の実施状況	20
(2)	指定避難場所の認知度	21
(3)	緊急時に利用する情報入手手段	22
(4)	自主防災組織の認知度	23
(5)	自主防災組織の活動の参加状況	24
(6)	防災行事への参加意向	25

6 食の安全・安心について	
(1) 食品の安全性に対する不安	26
(1-1) 食品の安全性について不安に思うもの	27
(2) 食品を購入するときに気を付けること	28
(3) 食の安全に関する知識や情報の取得	29
(4) 食品の安全性の向上	30
7 動物愛護について	
(1) 動物の飼育状況	31
(1-1) 飼い犬の個体識別措置の実施状況	32
(1-1-1) 個体識別措置を行っていない理由	33
(2) 個体識別措置を行う飼い主を増やすための取り組み	34
(3) 災害時のペット対策として必要なこと	35
8 観光について	
(1) 昨年の旅行の行き先	36
(1-1) 県内の日帰り旅行での消費額	37
(1-2) 県内の宿泊旅行での消費額	38
(2) 旅行に出かける目的	39
(3) 旅行に関する情報を得る手段	40
9 県産農産物への放射性物質の影響について	
(1) 農産物を購入するとき重視していること	41
(2) 農産物への放射性物質の影響についての意識	42
(3) 放射性物質に関する知識や情報を得る手段	43
(4) 農産物を安心して購入するために必要な情報	44
(5) 放射性物質の影響を知るために今後利用したい情報入手手段	45
10 犯罪と治安対策について	
(1) 県内の治安状況	46
(2) 不安を感じる犯罪	47
(3) 交番や駐在所の警察官に特に力を入れてほしい活動	48
(4) 高齢者の交通事故防止のために必要な対策	49
(5) 自転車の安全利用を促進するために必要な対策	50
(6) 飲酒運転根絶のために必要な対策	51

I 調査の概要

1 調査目的

この調査は、現在あるいは今後解決すべき課題について、県民の県政に対する意識・要望などを的確に把握し、県政施策の企画・立案及び県政執行上の参考に資することを目的とする。

2 調査項目

- (1) 暮らしの変化について*
 - (2) 県政への要望について*
 - (3) 日常生活について
 - (4) 広報・広聴活動について
 - (5) 東日本大震災を経験しての県民の防災意識について
 - (6) 食の安全・安心について
 - (7) 動物愛護について
 - (8) 観光について
 - (9) 県産農産物への放射性物質の影響について
 - (10) 犯罪と治安対策について
- （*印は時系列調査）

3 調査設計

- (1) 調査地域 栃木県全域
- (2) 調査対象 満 20 歳以上の男女個人
- (3) 標本数 2,000
- (4) 抽出方法 層化二段無作為抽出法
- (5) 調査方法 郵送法（郵送配布－郵送回収）
- (6) 調査時期 平成 24 年 5 月 21 日～6 月 13 日

4 調査機関

株式会社エスピー研

5 回収結果

回収数（率） 1,356（67.8%）

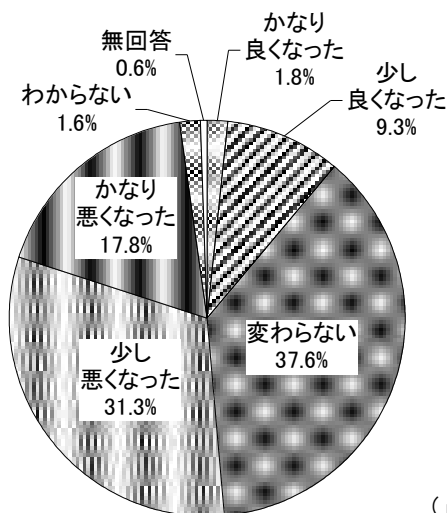
6 報告書の見方

- (1) 比率はすべて百分比で表し、小数点以下第 2 位を四捨五入して算出した。このために、百分比の合計が 100.0%にならないことがある。
- (2) 基数となるべき実数は n として掲載した。その比率は件数を 100%として算出した。
- (3) 1 人の回答者が複数回答で行う設問では、その比率の合計が 100%を上回ることがある。
- (4) 図表・本文では、スペースの都合等により回答選択肢を省略して表記している場合がある。
- (5) クロス集計では、分析軸の「無回答」を掲載していないため、分析軸における各項目の n の合計値と全体の数値とが合わない場合がある。
- (6) クロス集計時に、n が小さい数字になる場合は統計的誤差が生じる可能性が高いので注意が必要である。

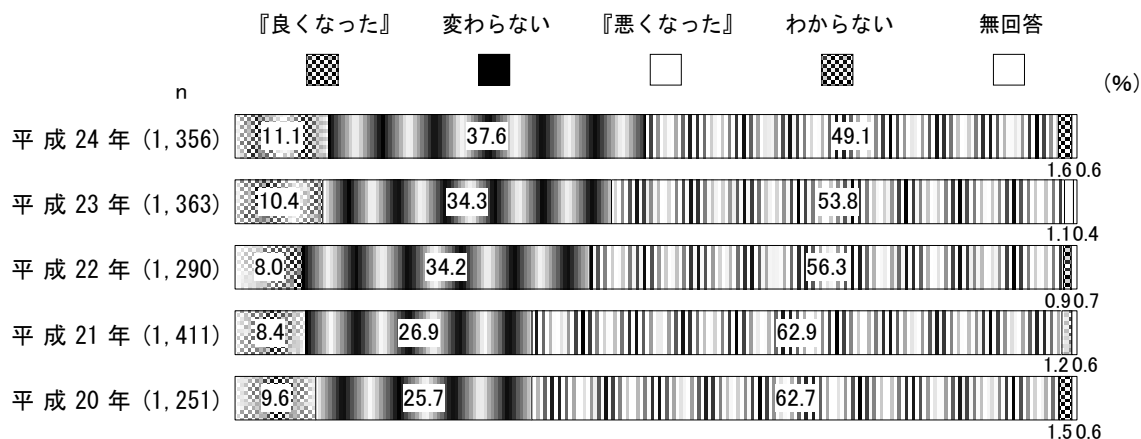
1 暮らしの変化について

(1) 暮らしの変化

問1 あなたの暮らしは、この5～6年の間にどう変わりましたか。次の中から1つ選んでください。 [n=1,356]



- ・全体で見ると、「かなり良くなった」(1.8%)と「少し良くなった」(9.3%)の2つを合わせた『良くなった』(11.1%)は1割を超えている。一方、「少し悪くなった」(31.3%)と「かなり悪くなった」(17.8%)の2つを合わせた『悪くなった』(49.1%)はほぼ5割となっている。
- ・性別で見ると、ほぼ同じ傾向になっている。
- ・性/年齢別で見ると、『良くなった』では〈男性20歳代〉(21.8%)、〈男性30歳代〉(21.5%)が他の世代に比べて高くなっている。一方、『悪くなった』では〈女性60～64歳〉が62.7%、〈男性50歳代〉が62.3%と高くなっている。「かなり悪くなった」では〈男女とも40歳代から60～64歳までの各年代〉が2割から3割近くと他の世代に比べて高くなっている。



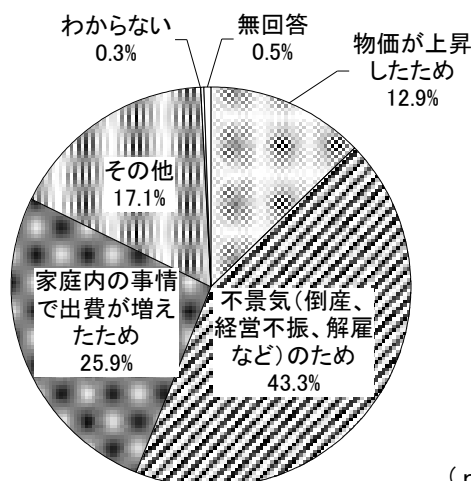
- ・過去の調査結果と比較すると、『悪くなった』は平成22年から減少傾向となっている。一方、『良くなった』は前回(平成23年)に引き続いて1割を超えている。

(1-1) 暮らしが悪くなった理由

(問1で「少し悪くなった」、「かなり悪くなった」を選んだ方のみお答えください)

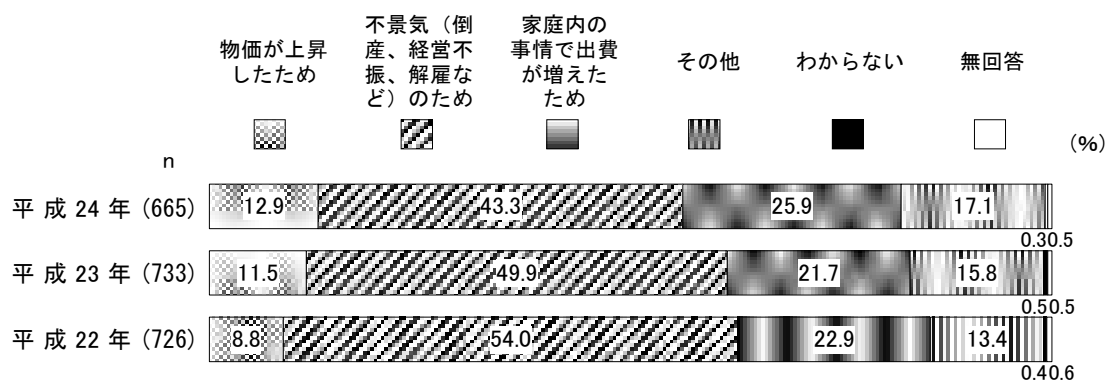
問1-1 悪くなったのは、主にどのようなことからですか。もっとも大きな原因を1つ選んでください。

[n=665]



(n=665)

- ・全体でみると、「不景気（倒産、経営不振、解雇など）のため」（43.3%）が4割を超えて最も高く、次いで「家庭内の事情で出費が増えたため」（25.9%）、「物価が上昇したため」（12.9%）の順となっている。
- ・性別でみると、「不景気（倒産、経営不振、解雇など）のため」では〈男性〉（50.5%）が〈女性〉（36.7%）より13.8ポイント高く、「家庭内の事情で出費が増えたため」では〈女性〉（30.6%）が〈男性〉（21.5%）より9.1ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別でみると、「不景気（倒産、経営不振、解雇など）のため」では〈男性50歳代〉が57.9%、〈男性60～64歳〉が56.3%と高くなっている。「家庭内の事情で出費が増えたため」では〈女性30歳代〉が43.5%、〈女性40歳代〉が40.0%と高くなっている。

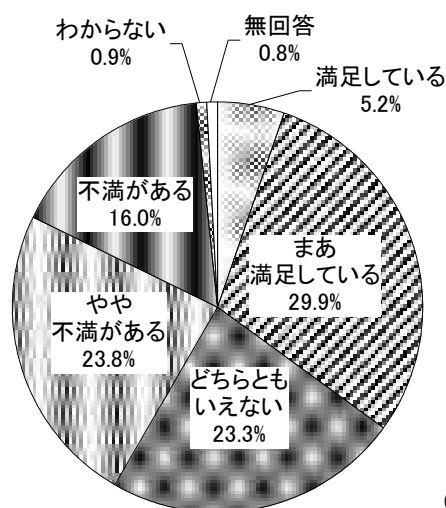


- ・過去の調査結果と比較すると、「不景気（倒産、経営不振、解雇など）のため」は減少傾向となっており、「家庭内の事情で出費が増えたため」と「物価が上昇したため」は前回（平成23年）と比べて増加している。

(2) 暮らしの満足度

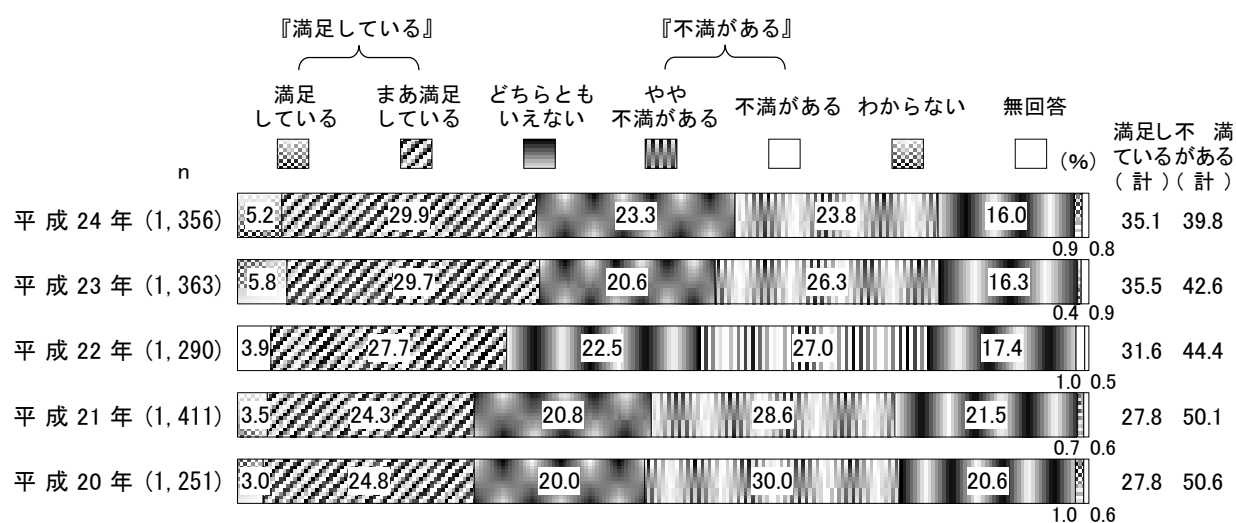
問2 あなたは、今の暮らしについてのどの程度満足していますか。次の中から1つ選んでください。

[n = 1,356]



(n = 1,356)

- ・全体でみると、「満足している」(5.2%)と「まあ満足している」(29.9%)の2つを合わせた『満足している』(35.1%)は3割半ばとなっている。一方、「やや不満がある」(23.8%)と「不満がある」(16.0%)の2つを合わせた『不満がある』(39.8%)は4割となっている。
- ・性別でみると、『満足している』では〈女性〉(37.4%)が〈男性〉(33.1%)より4.3ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別でみると、『満足している』では〈女性 70歳以上〉が45.4%と高くなっている。『不満がある』では〈女性 60～64歳〉が51.8%と高くなっている。

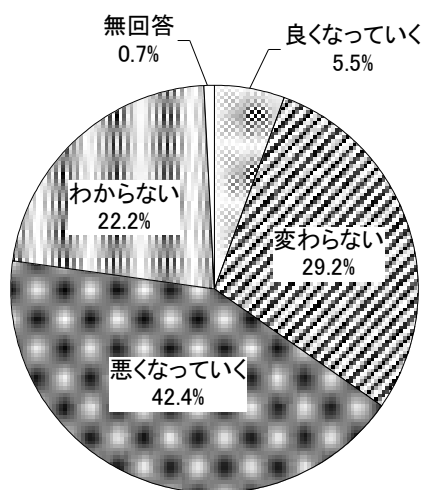


- ・過去の調査結果と比較すると、『満足している』は前回(平成23年)とほぼ同じ割合となり、平成22年以前と比べて高くなっている。

(3) 今後の暮らしの状況

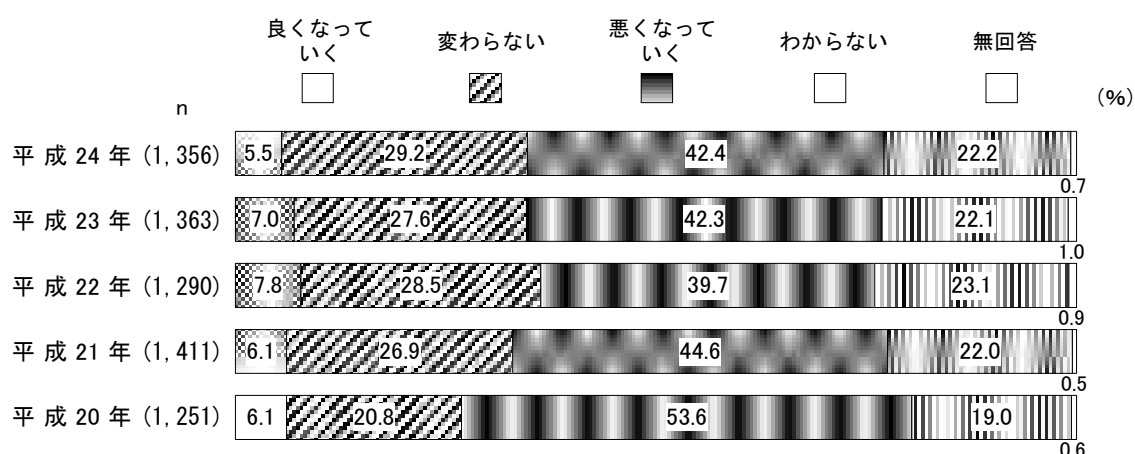
問3 あなたの暮らしは、これから先どうなっていくと思いますか。次の中から1つ選んでください。

[n = 1, 356]



(n = 1, 356)

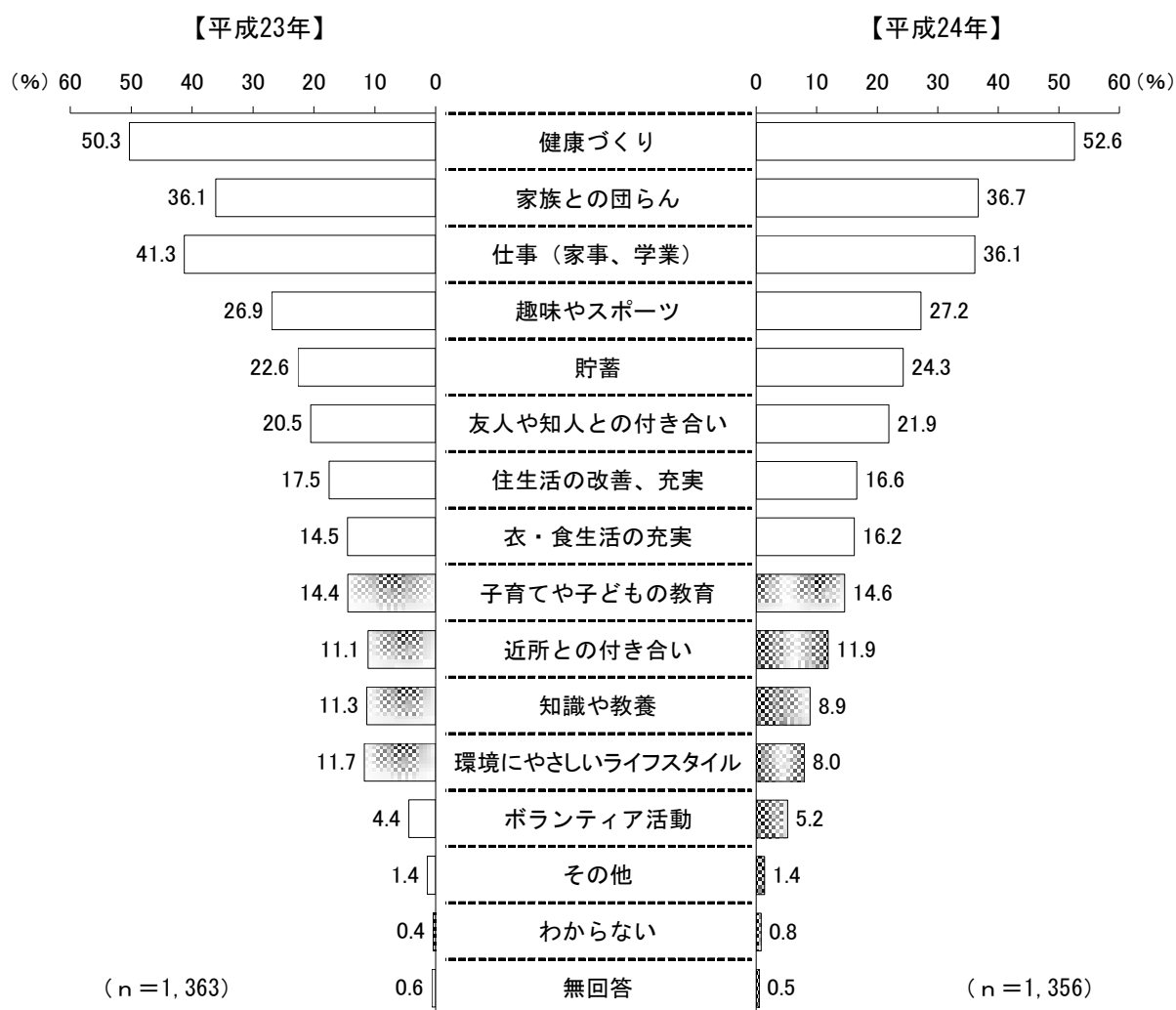
- ・全体で見ると、「良くなっていく」(5.5%)は1割に満たない。一方、「悪くなっていく」(42.4%)が4割を超えている。「変わらない」(29.2%)はほぼ3割である。
- ・性別で見ると、「悪くなっていく」では〈男性〉(46.3%)が〈女性〉(38.0%)より8.3ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、「良くなっていく」では〈男性20歳代〉が21.8%と他の年代に比べて高くなっている。「悪くなっていく」では〈男性の50歳代から65~69歳の各年代〉と〈女性60~64歳〉が5割以上と高くなっている。



- ・過去の調査結果と比較すると、前回(平成23年)とほぼ同じ傾向になっている。

(4) 今後の暮らしで力を入れる点

問4 あなたは、今後の暮らしの中で、どのような点に力を入れていきたいと思いますか。
次の中から3つまで選んでください。 [n=1,356]



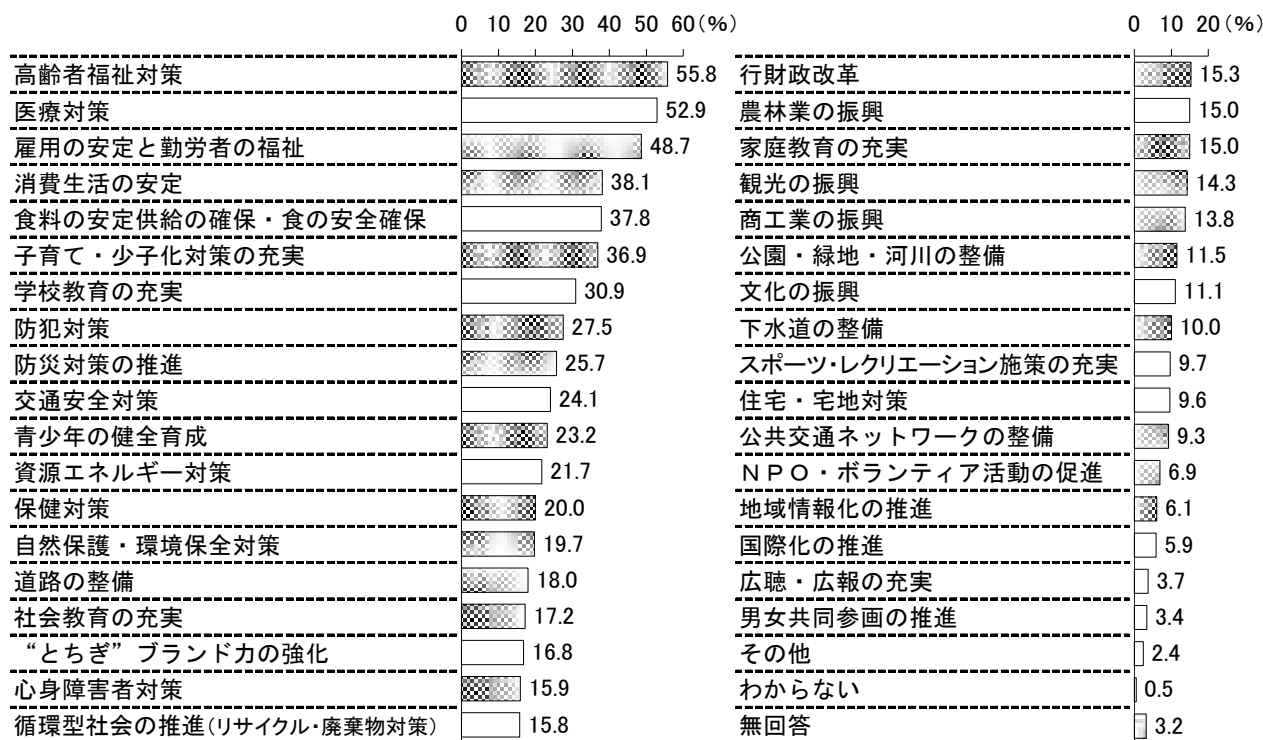
- ・全体で見ると、「健康づくり」(52.6%)が5割を超えて最も高く、次いで「家族との団らん」(36.7%)、「仕事(家事、学業)」(36.1%)、「趣味やスポーツ」(27.2%)、「貯蓄」(24.3%)の順となっている。
- ・性別で見ると、「趣味やスポーツ」では〈男性〉(34.8%)が〈女性〉(21.1%)より13.7ポイント高くなっている。「貯蓄」では〈女性〉(28.0%)が〈男性〉(20.6%)より7.4ポイント、「子育てや子どもの教育」では〈女性〉(17.8%)が〈男性〉(11.1%)より6.1ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、「健康づくり」では〈男性の65～69歳以上の各年代〉と〈女性の60～64歳以上の各年代〉で7割以上と高くなっている。「仕事(家事、学業)」では〈女性20歳代〉で71.2%、〈男性の20歳代から40歳代の各年代〉で6割以上と高く、「貯蓄」では〈女性の20歳代から40歳代の各年代〉で4割以上と高くなっている。「友人や知人とのつきあい」は〈男女とも20歳代〉で4割以上と高く、「子育てや子どもの教育」では〈女性30歳代〉で55.8%と高くなっている。
- ・前回(平成23年)の調査結果と比較すると、「仕事(家事、学業)」が5.2ポイント減少している。

2 県政への要望について

(1) 県政への要望

問5 県では、皆様のご理解とご協力を得ながら“「安心」「成長」「環境」をともにつくる元気度日本一 栃木県”をめざしていろいろな仕事をしています。あなたが、県政に対して、特に力を入れてほしいことは何ですか。次の中からいくつでも選んでください。

[n = 1, 356]



- ・全体で見ると、「高齢者福祉対策」(55.8%)と「医療対策」(52.9%)、「雇用の安定と勤労者の福祉」(48.7%)の3項目が高く、次いで「消費生活の安定」(38.1%)、「食料の安定供給の確保・食の安全確保」(37.8%)、「子育て・少子化対策の充実」(36.9%)、「学校教育の充実」(30.9%)の順となっている。
- ・性別で見ると、「食料の安定供給の確保・食の安全確保」では〈女性〉(42.9%)が〈男性〉(32.4%)より10.5ポイント高く、「消費生活の安定」では〈女性〉(42.1%)が〈男性〉(33.7%)より8.4ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、「高齢者福祉対策」では〈女性70歳以上〉(74.8%)、〈女性60～64歳〉(71.1%)が7割以上で、「医療対策」では〈女性60～64歳〉(65.1%)が6割半ばと高くなっている。また、「雇用の安定と勤労者の福祉」では〈女性50歳代〉が68.1%、「食料の安定供給の確保・食の安全確保」では〈女性60～64歳〉が50.6%と高くなっている。

[過去の調査結果]

(上位5項目)

年	順位	1位	2位	3位	4位	5位
平成24年		高齢者福祉対策 55.8%	医療対策 52.9%	雇用の安定と勤労者の福祉 48.7%	消費生活の安定 38.1%	食料の安定供給の確保・食の安全確保 37.8%
平成23年		高齢者福祉対策 57.0%	医療対策 54.1%	雇用の安定と勤労者の福祉 50.0%	食料の安定供給の確保・食の安全確保 35.2%	消費生活の安定 35.0%
平成22年		高齢者福祉対策 62.1%	医療対策 57.1%	雇用の安定と勤労者の福祉 53.3%	消費生活の安定 36.4%	食料の安定供給の確保・食の安全確保 34.5%
平成21年		医療対策 65.1%	高齢者福祉対策 62.8%	雇用の安定と勤労者の福祉 47.3%	消費生活の安定 41.6%	食料の安定供給の確保・食の安全確保 37.5%
平成20年		高齢者福祉対策 62.9%	医療対策 60.7%	消費生活の安定 44.3%	食料の安定供給の確保 41.6%	防犯対策 39.2%
平成19年		高齢者福祉対策 62.6%	医療対策 57.6%	防犯対策 36.3%	雇用の安定と勤労者の福祉 35.8%	学校教育の充実 35.6%
平成18年		高齢者福祉対策 55.2%	医療対策 51.4%	防犯対策 40.3%	子育て・少子化対策の充実 37.2%	雇用の安定と勤労者の福祉 36.8%
平成17年		高齢者福祉対策 56.3%	医療対策 51.0%	防犯対策 43.6%	青少年の健全育成 37.9%	雇用の安定と勤労者の福祉 37.6%
平成16年		高齢者福祉対策 55.1%	医療対策 45.6%	雇用の安定と勤労者の福祉 39.7%	防犯対策 35.9%	青少年の健全育成 34.3%
平成15年		高齢者福祉対策 55.6%	医療対策 46.7%	雇用の安定と勤労者の福祉 41.5%	青少年の健全育成／防犯対策 34.1%	
平成14年		高齢者福祉対策 57.1%	医療対策 48.3%	雇用の安定と勤労者の福祉 41.7%	青少年の健全育成 34.5%	廃棄物の処理対策 32.7%
平成13年		高齢者福祉対策 51.7%	青少年の健全育成 43.6%	廃棄物の処理対策 42.0%	医療対策 39.9%	雇用の安定と勤労者の福祉 36.2%
平成12年		老人福祉対策 41.5%	青少年の健全育成 39.3%	廃棄物の処理対策 34.1%	学校教育の充実 34.0%	雇用の安定と勤労者の福祉 31.3%
平成11年		老人福祉対策 46.5%	廃棄物の処理対策 42.8%	医療対策 39.2%	雇用の安定と勤労者の福祉 39.1%	青少年の健全育成 35.5%
平成10年		老人福祉対策 47.3%	医療対策 39.2%	物価対策 34.2%	廃棄物の処理対策 33.8%	雇用の安定と勤労者の福祉 29.5%

※平成12年まで「高齢者福祉対策」は「老人福祉対策」

平成12年まで「消費生活の安定」は「消費者保護対策」

平成20年まで「食料の安定供給の確保・食の安全確保」は「食料の安定供給の確保」であり、

平成13年より加わった選択肢である。

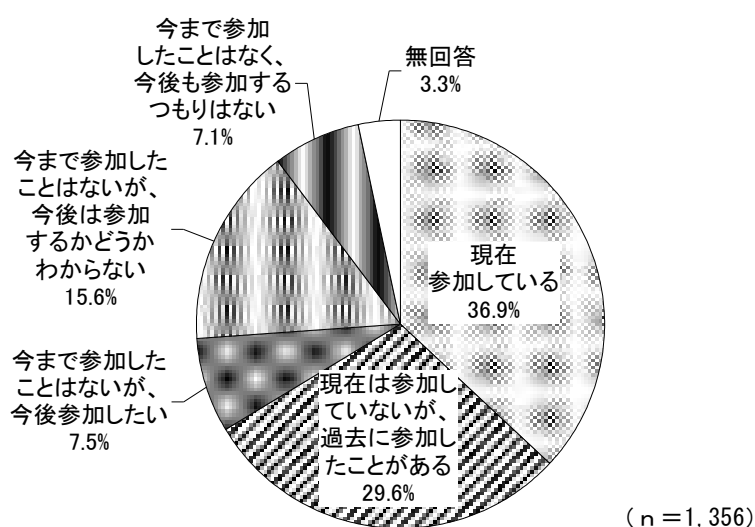
- ・上位5項目を過去の調査結果と比較すると、上位3項目は前回（平成23年）および前々回（平成22年）と同じ順位となっている。また、「消費生活の安定」と「食料の安定供給の確保・食の安全確保」は、平成21年以降いずれも4位または5位となっている。

3 日常生活について

(1) 社会貢献活動について

問6 あなたは、社会貢献活動（※）に参加したことがありますか。また、今後参加したいと思いませんか。次の中から1つ選んでください。 [n=1,356]

※ 社会貢献活動とは、例えば、募金、寄附、プルタブ、エコキャップなどの物品収集や公園清掃などの活動、ボランティアやNPO（特定非営利活動団体）活動、コミュニティ活動、自治会、育成会等の地域活動などをいいます。

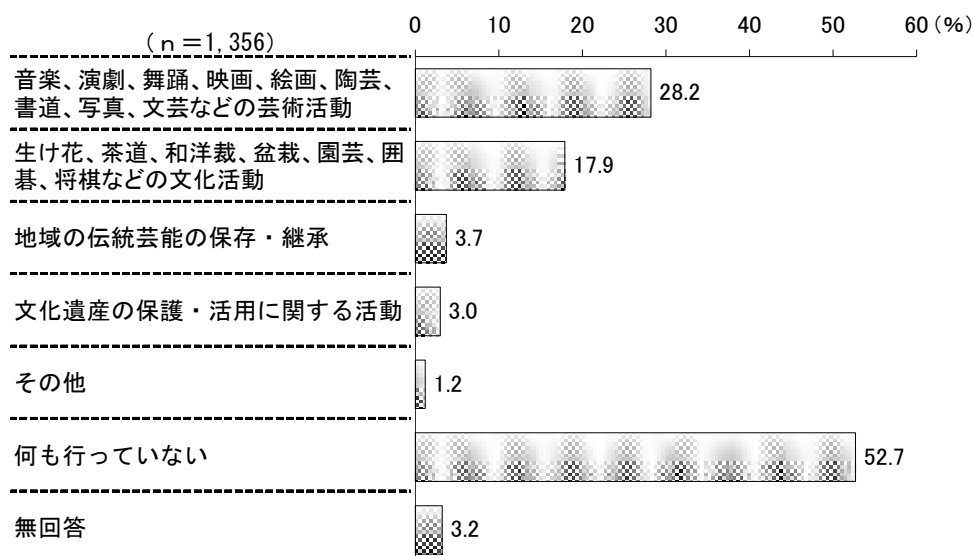


- ・全体で見ると、「現在参加している」(36.9%)は4割近くと最も高く、次いで「現在は参加していないが、過去に参加したことがある」(29.6%)、「今まで参加したことはないが、今後は参加するかどうかわからない」(15.6%)、「今まで参加したことはないが、今後参加したい」(7.5%)、「今まで参加したことはなく、今後も参加するつもりはない」(7.1%)の順となっている。
- ・性別で見ると、「現在参加している」では〈女性〉(39.6%)が〈男性〉(34.5%)より5.1ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、「現在参加している」では〈女性40歳代〉(54.5%)が5割半ば、〈男性60～64歳〉(48.2%)が5割近くと高くなっている。一方、〈男性20歳代〉(9.1%)と〈女性20歳代〉(11.5%)は1割前後となっている。

(2) 芸術・文化活動について

問7 あなたが日ごろ行っている芸術・文化活動は、どのようなものですか。
次の中からいくつでも選んでください。

[n=1,356]



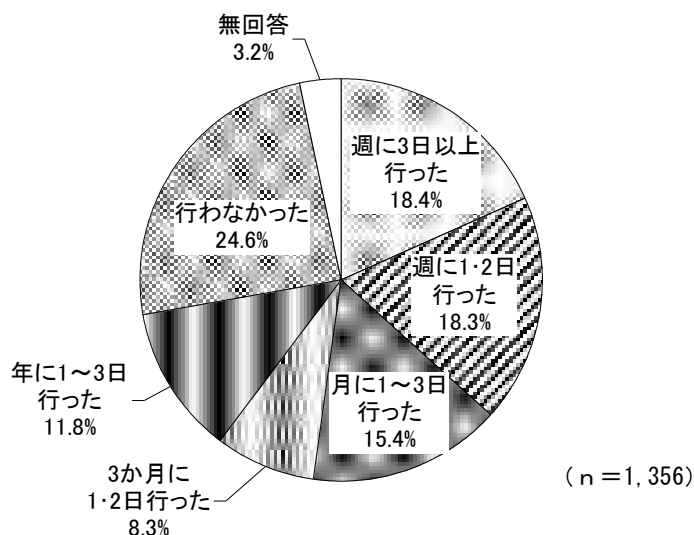
- ・全体でみると、「音楽、演劇、舞踊、映画、絵画、陶芸、書道、写真、文芸などの芸術活動（以下『芸術活動』という。）」(28.2%)が3割近くで、「生け花、茶道、和洋裁、盆栽、園芸、囲碁、将棋などの文化活動（以下『文化活動』という。）」(17.9%)が2割近くとなっている。一方、「何も行っていない」(52.7%)は5割を超えている。
- ・性別でみると、『芸術活動』では〈女性〉(31.4%)が〈男性〉(25.2%)より6.2ポイント高く、『文化活動』では〈女性〉(20.8%)が〈男性〉(15.1%)より5.7ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別でみると、『芸術活動』では〈女性20歳代〉が42.3%で高く、『文化活動』では〈男性の65～69歳以上の各年代〉と〈女性の50歳代以上の各年代〉で割合が高くなっている。

(3) スポーツ活動について

問8 あなたは、この1年間にスポーツ(※)を行いましたか。次の中から1つ選んでください。

※ スポーツとは、ウォーキング、散歩、ダンス、ボウリング、ハイキング・キャンプなどのアウトドアスポーツ、軽い体操、レクリエーションスポーツを含みます。

[n = 1, 356]

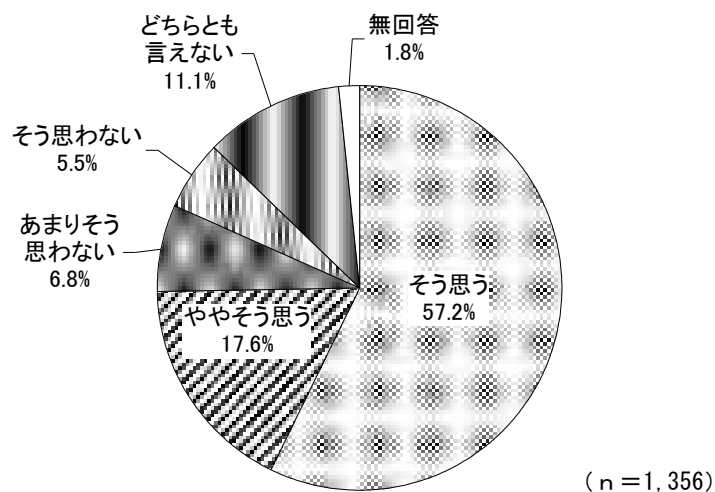


- ・全体で見ると、「週に3日以上行った」(18.4%)と「週に1・2回行った」(18.3%)がともに2割近く、「月に1～3回行った」(15.4%)は1割半ばとなっている。一方、「行わなかった」(24.6%)は2割半ばとなっている。
- ・性別で見ると、「行わなかった」では〈女性〉(25.8%)が〈男性〉(22.5%)より3.3ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、「週に3日以上行った」では〈女性60～64歳〉が34.9%、〈男性60～64歳〉が30.1%と他の年代に比べて高くなっている。また、〈男女とも60～64歳以上の各年代〉では、〈男女とも50歳代以下の各年代〉に比べてスポーツを行う頻度の高い人の割合が高くなっている。

(4) 住んでいる地域について

問9 あなたは、住んでいる地域にこれからも住み続けたいと思いますか。
次の中から1つ選んでください。

[n=1,356]

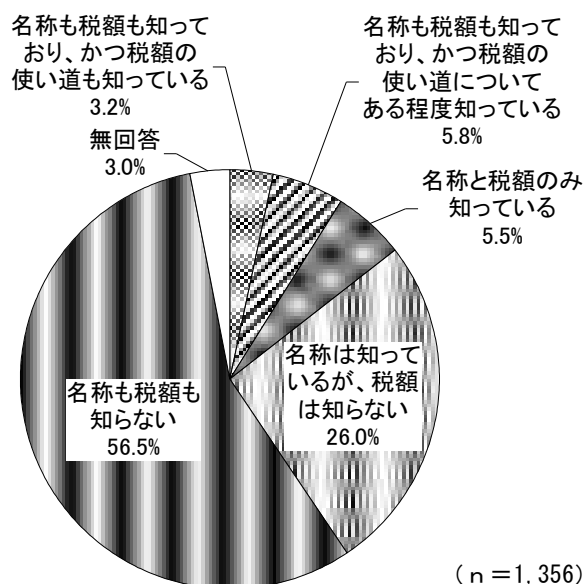


- ・全体でみると、「そう思う」(57.2%)と「ややそう思う」(17.6%)の2つを合わせた『定住意向』(74.8%)は7割半ばとなっている。一方、「あまりそう思わない」(6.8%)と「そう思わない」(5.5%)の2つを合わせた『転出意向』(12.3%)は1割を超えている。
- ・性別でみると、男女ともほぼ同じ傾向になっている。
- ・性/年齢別でみると、『定住意向』では〈男性の65～69歳以上の各年代〉と〈女性70歳以上〉が8割を超えて高くなっている。『転出意向』では〈女性20歳代〉(19.3%)が最も高くなっているが、すべての年代で2割未満となっている。

(5) 「とちぎの元気な森づくり県民税」について

問10 あなたは、平成20年4月から本県で導入している「とちぎの元気な森づくり県民税」いわゆる森林環境税を知っていますか。次の中から1つ選んでください。

[n = 1, 356]

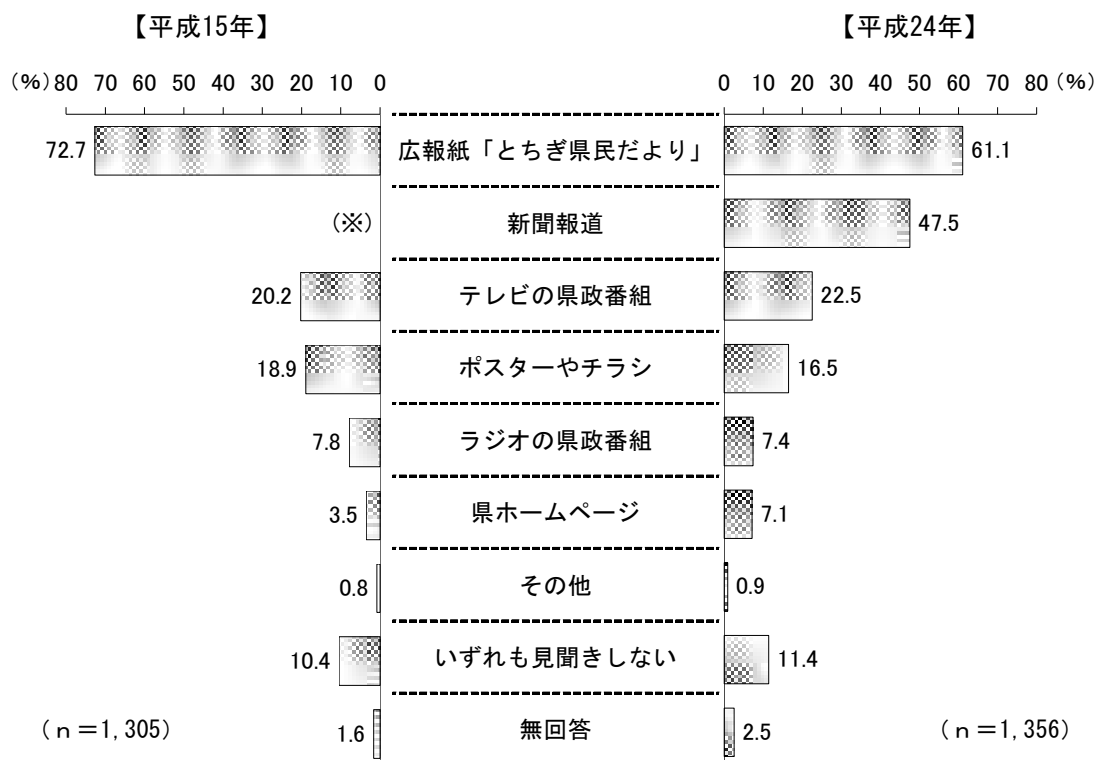


- ・全体で見ると、「名称は知っているが、税額は知らない」(26.0%)が2割半ばで、「名称も税額も知っており、かつ税額の使い道についてある程度知っている」が5.8%、「名称と税額のみ知っている」が5.5%となっている。一方、「名称も税額も知らない」(56.5%)が5割半ばとなっている。
- ・性別で見ると、「名称も税額も知らない」では〈女性〉(60.2%)が〈男性〉(53.5%)より6.7ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、「名称も税額も知っており、かつ税額の使い道も知っている」では〈男性60～64歳〉が8.4%で最も高くなっている。一方、「名称も税額も知らない」では〈女性20歳代〉が86.5%、〈男性20歳代〉が81.8%と高くなっている。

4 広報・広聴活動について

(1) 県政情報の入手手段

問11 あなたは、県の事業や催し、試験などの情報をどのような方法でお知りになりますか。次の中からいくつでも選んでください。 [n=1,356]



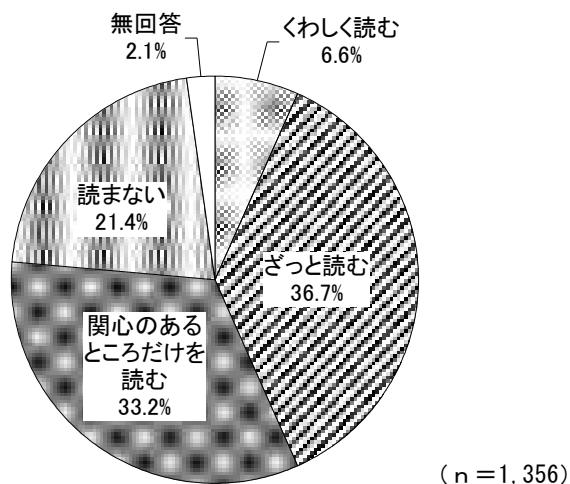
(※) 平成15年調査では「新聞報道」の選択肢は聞いていない。また、「新聞広告（毎月1日の新聞に掲載しているお知らせなど）」（39.8%）、「広報誌（銀行や病院、理美容院、公共施設などに置いてあるグラフ誌）」（8.5%）の選択肢を聞いていた。

- ・全体で見ると、広報紙「とちぎ県民だより」（61.1%）が6割を超えて最も高く、次いで「新聞報道」（47.5%）、「テレビの県政番組」（22.5%）、「ポスターやチラシ」（16.5%）、「ラジオの県政番組」（7.4%）、「県ホームページ」（7.1%）の順となっている。
- ・性別で見ると、広報紙「とちぎ県民だより」では〈女性〉（65.7%）が〈男性〉（56.9%）より8.8ポイント高くなっている。
- ・性／年齢別で見ると、広報紙「とちぎ県民だより」では〈男女とも20歳代と30歳代〉が〈男女とも40歳以上の各年代〉に比べて割合が低くなっており、特に〈男性20歳代〉が21.8%、〈男性30歳代〉が38.1%となっている。「新聞報道」では〈男性70歳以上〉が70.1%、〈女性60～64歳〉が67.5%となっている。「テレビの県政番組」では〈女性70歳以上〉が43.9%、「ポスターやチラシ」では〈女性20歳代〉が30.8%、「県ホームページ」では〈男性20歳代〉が20.0%と高くなっている。
- ・平成15年の調査結果を比較すると、広報紙「とちぎ県民だより」が11.6ポイント減少している。

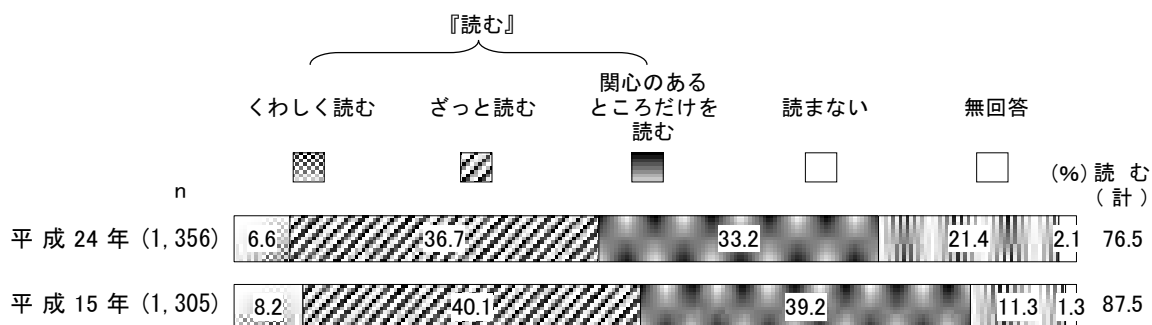
(2)「とちぎ県民だより」の閲読状況

問12 県では、新聞折り込みで、毎月第一日曜日に広報紙「とちぎ県民だより」を発行していますが、あなたはどの程度読んでいますか。次の中から1つ選んでください。

[n = 1, 356]



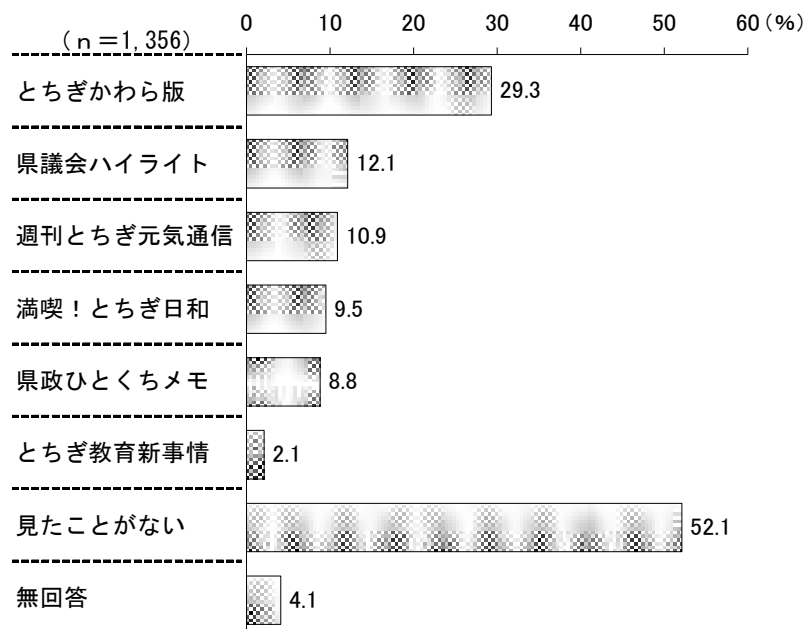
- ・全体で見ると、「くわしく読む」(6.6%)と「ざっと読む」(36.7%)、「関心のあるところだけ読む」(76.5%)の3つを合わせた『読む』(76.5%)は8割近くとなっている。一方、「読まない」(21.4%)は2割を超えている。
- ・性別で見ると、「ざっと読む」では、〈女性〉(40.5%)が〈男性〉(32.6%)より7.9ポイント高く、「読まない」では〈男性〉(24.7%)が〈女性〉(18.3%)より6.4ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、「くわしく読む」では〈男性70歳以上〉が16.5%と高くなっている。また、「ざっと読む」では、〈女性50歳代〉(47.8%)と〈女性65～69歳代〉(48.5%)、「関心のあるところだけ読む」では、〈男性40歳代〉(43.5%)が、いずれも5割近くとなっている。「読まない」では〈男性20歳代〉(47.3%)、〈男性30歳代〉(50.0%)、〈女性20歳代〉(48.1%)が5割前後と高くなっている。



- ・平成15年の調査結果と比較すると、『読む』は11.0ポイント減少している。一方、「読まない」は10.1ポイント増加している。

(3) とちぎテレビの県政番組の視聴状況

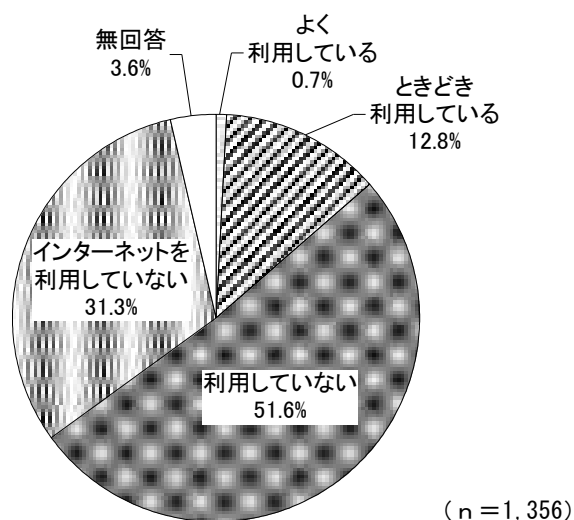
問13 県では、県政番組をとちぎテレビで提供していますが、あなたは見たことがありますか。見たことのある番組を、次の中からいくつでも選んでください。 [n=1,356]



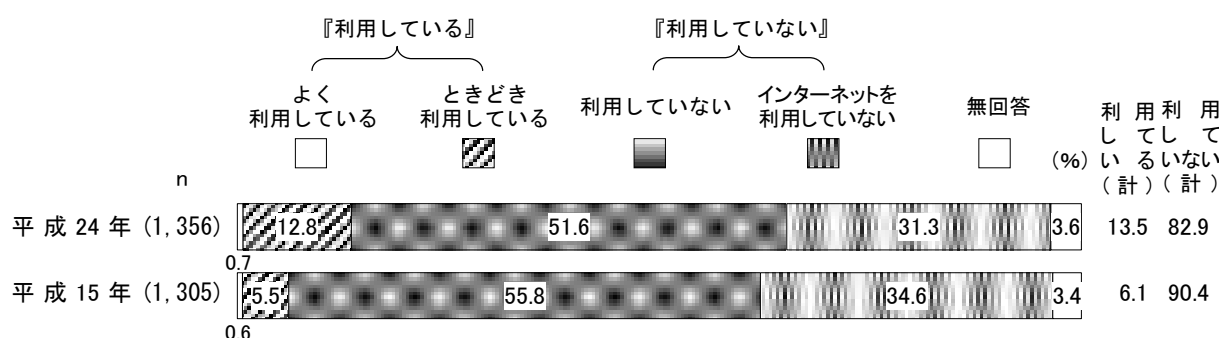
- ・全体でみると、「とちぎかわら版」(29.3%)がほぼ3割で最も高く、次いで「県議会ハイライト」(12.1%)、「週刊とちぎ元気通信」(10.9%)、「満喫!とちぎ日和」(9.5%)、「県政ひとくちメモ」(8.8%)、「とちぎ教育新事情」(2.1%)の順となっている。一方、「見たことがない」(52.1%)は5割を超えている。
- ・性別でみると、「とちぎかわら版」では〈女性〉(33.0%)が〈男性〉(26.0%)より7.0ポイント高く、「見たことがない」では〈男性〉(55.1%)が〈女性〉(49.9%)より5.2ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別でみると、「とちぎかわら版」では〈女性60~64歳〉が39.8%、〈女性65~69歳〉が38.2%と高くなっている。また、「県議会ハイライト」では〈男性70歳以上〉が30.7%と高くなっている。一方、「見たことがない」では〈男性20歳代〉が72.7%、〈女性20歳代〉が65.4%と高くなっている。

(4) 県ホームページの利用状況

問14 県では、インターネットで県政情報を発信していますが、あなたは県のホームページを利用したことがありますか。次の中から1つ選んでください。 [n=1,356]



- ・全体で見ると、「よく利用している」(0.7%)と「ときどき利用している」(12.8%)の2つを合わせた『利用している』(13.5%)は1割を超えている。一方、「利用していない」(51.6%)と「インターネットを利用していない」(31.3%)の2つを合わせた『利用していない』(82.9%)は8割を超えている。
- ・性別で見ると、『利用している』では〈男性〉(15.9%)が〈女性〉(11.4%)より4.5ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、『利用している』では〈女性30歳代〉(27.5%)と〈男性の20歳代から40歳代の各年代〉で2割以上となっている。

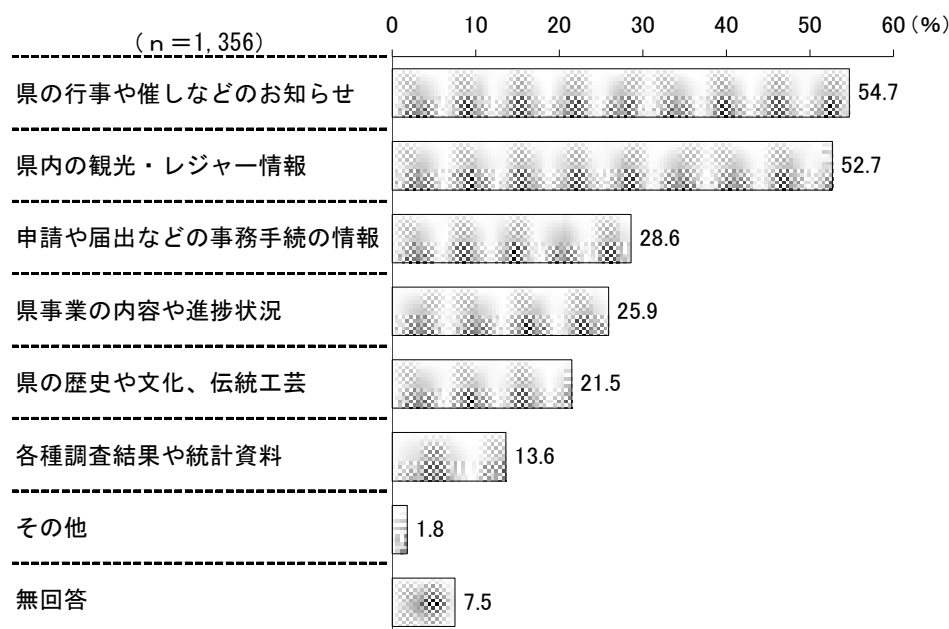


- ・平成15年の調査結果と比較すると、『利用している』が7.4ポイント増加している。

(5) 県政情報で関心のあるもの

問15 あなたは、県のどのような情報を知りたいですか。
次の中からいくつでも選んでください。

[n = 1,356]



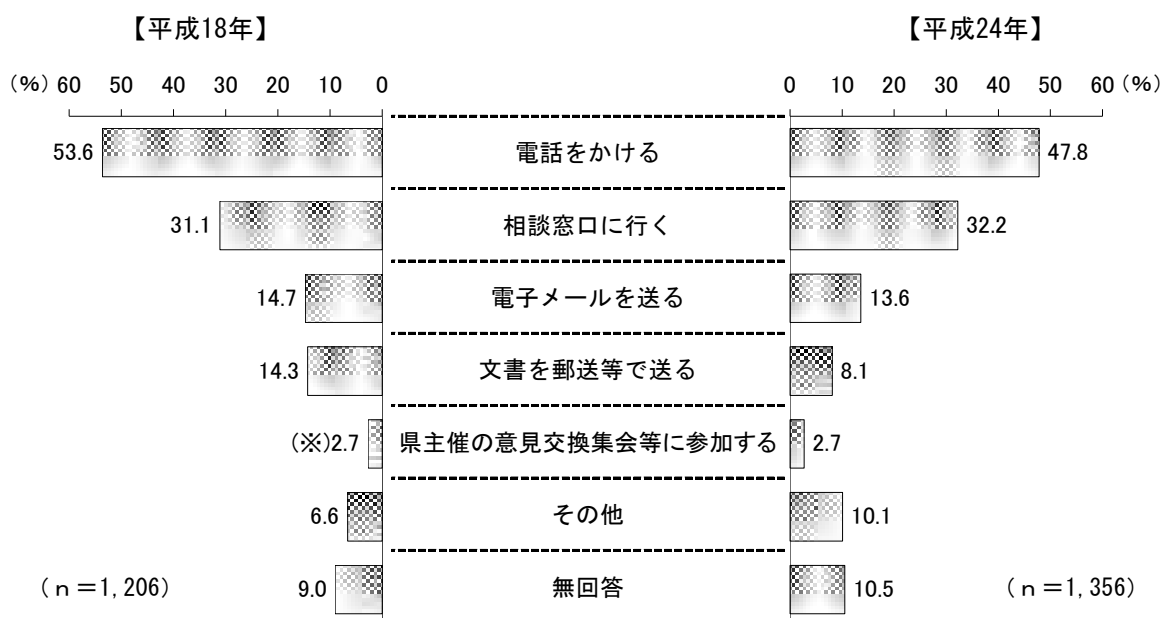
- ・全体でみると、「県の行事や催しなどのお知らせ」(54.7%)と「県内の観光・レジャー情報」(52.7%)がともに5割以上で最も高く、次いで「申請や届出などの事務手続の情報」(28.6%)、「県事業の内容や進捗状況」(25.9%)、「県の歴史や文化、伝統工芸」(21.5%)、「各種調査結果や統計資料」(13.6%)の順となっている。
- ・性別でみると、「県の行事や催しなどのお知らせ」では〈女性〉(58.8%)が〈男性〉(51.5%)より7.3ポイント高く、「申請や届出などの事務手続の情報」では〈女性〉(32.8%)が〈男性〉(24.9%)より7.9ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別でみると、「県内の観光・レジャー情報」では〈女性30歳代〉が68.3%と高くなっている。「申請や届出などの事務手続の情報」では〈女性40歳代〉が51.5%、〈女性30歳代〉が49.2%と高くなっている。「県事業の内容や進捗状況」では〈男性65~69歳〉が44.9%、「県の歴史や文化、伝統工芸」では〈女性70歳以上〉が36.7%と高くなっている。

(6) 県に対する意見・提案等を行うときの手段

問16 あなたは、県に意見・提案等を行う場合、どのような方法で行いますか。

次の中からいくつでも選んでください。

[n = 1,356]



(※)平成18年調査では、「『とちぎ元気フォーラム』等の意見交換集会に参加する」としていた。

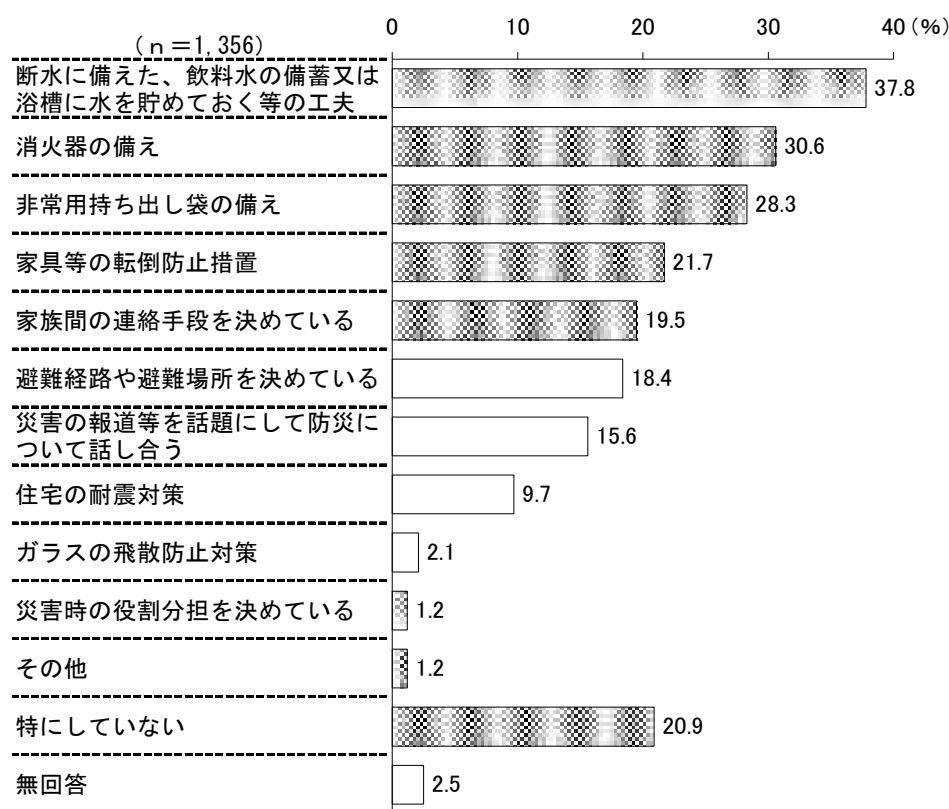
- ・全体でみると、「電話をかける」(47.8%)が5割近くで最も高く、次いで「相談窓口に行く」(32.2%)、「電子メールを送る」(13.6%)、「文書を郵送等で送る」(8.1%)、「県主催の意見交換集会等に参加する」(2.7%)の順となっている。
- ・性別でみると、「電話をかける」では〈女性〉(51.4%)が〈男性〉(44.1%)より7.3ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別でみると、「電話をかける」では〈女性65～69歳〉が61.8%、〈女性60～64歳〉が60.2%と高くなっている。「電子メールを送る」では〈男女とも20歳代から40歳代の各年代〉がいずれも2割以上となっている。「文書を郵送等で送る」では〈男性65～69歳〉が16.7%と高くなっている。
- ・平成18年の調査結果と比較すると、「文書を郵送等で送る」が6.2ポイント減少し、「電話をかける」が5.8ポイント減少している。

5 東日本大震災を経験しての県民の防災意識について

(1) 災害対策の実施状況

問17 あなたの家庭では、災害に対してどのような備えをしていますか。
次の中からいくつでも選んでください。

[n = 1, 356]

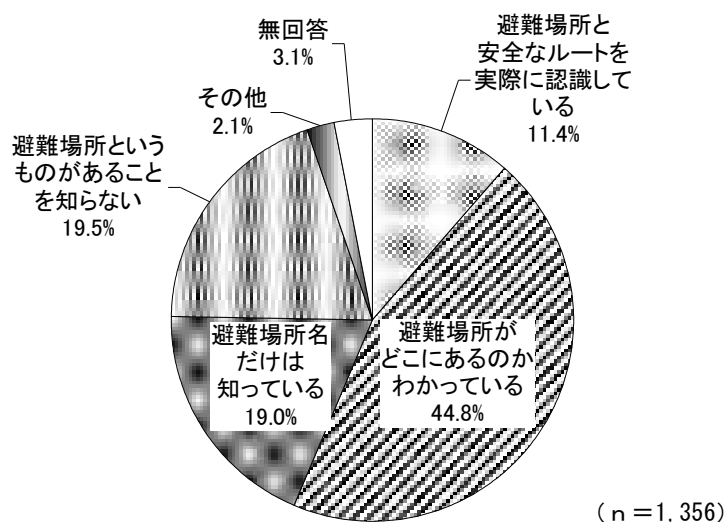


- ・ 全体で見ると、「断水に備えた、飲料水の備蓄又は浴槽に水を貯めておく等の工夫」(37.8%) が4割近くで最も高く、次いで「消火器の備え」(30.6%)、「非常用持ち出し袋の備え」(28.3%)、「家具等の転倒防止措置」(21.7%)、「家族間の連絡手段を決めている」(19.5%)の順となっている。一方、「特にしていない」(20.9%)はほぼ2割となっている。
- ・ 性別で見ると、「断水に備えた、飲料水の備蓄又は浴槽に水を貯めておく等の工夫」では〈女性〉(43.0%)が〈男性〉(32.9%)より10.1ポイント高くなっている。
- ・ 性/年齢別で見ると、「断水に備えた、飲料水の備蓄又は浴槽に水を貯めておく等の工夫」では〈女性65～69歳代〉が64.7%、「消火器の備え」では〈女性70歳以上〉が46.8%、「非常用持ち出し袋の備え」では〈女性60～64歳〉が39.8%と高くなっている。

(2) 指定避難場所の認知度

問18 あなたは、大規模災害時に避難することになっている指定避難場所についてどの程度ご存じですか。次の中から1つ選んでください。

[n = 1,356]

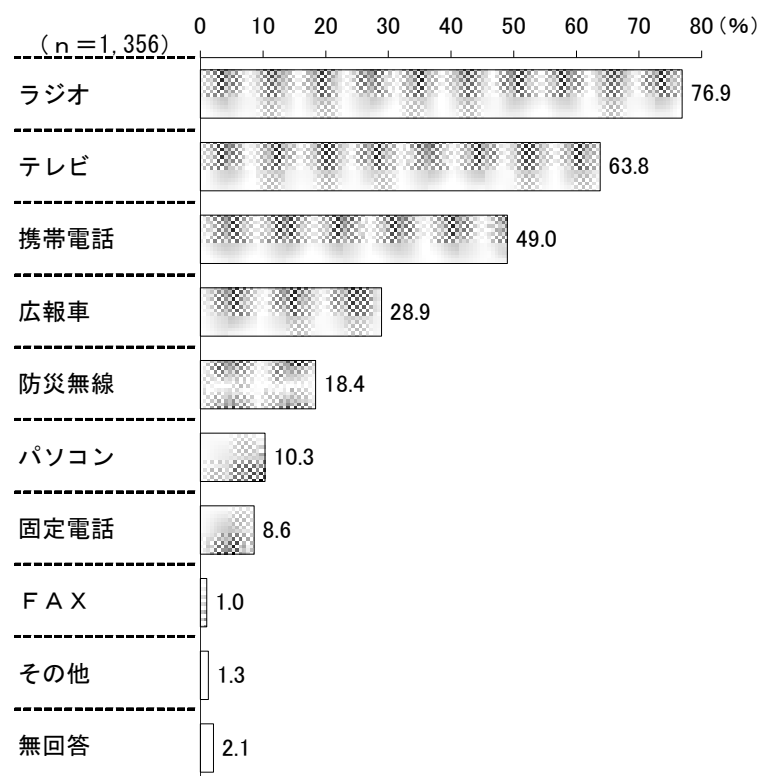


- ・全体でみると、「避難場所と安全なルートを実際に認識している」(11.4%)が1割を超えており、「避難場所がどこにあるのかわかっている」(44.8%)は4割半ばとなっている。また、「避難場所名だけは知っている」(19.0%)と「避難場所というものを知らない」(19.5%)はともにほぼ2割である。
- ・性別でみると、「避難場所名だけは知っている」では〈男性〉(20.5%)が〈女性〉(17.5%)より3.0ポイント、「避難場所というものを知らない」では〈男性〉(21.3%)が〈女性〉(18.1%)より3.2ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別でみると、「避難場所と安全なルートを実際に認識している」では〈男性65～69歳〉が17.9%、〈男性70歳以上〉が17.3%と他の年代に比べて高くなっている。「避難場所というものを知らない」では〈男性20歳代〉が25.5%、〈男性30歳代〉が25.0%と高くなっている。

(3) 緊急時に利用する情報入手手段

問19 あなたは、東日本大震災の経験から、緊急時に情報を得る手段としてどのような手段が有効であるとお考えですか。次の中からいくつでも選んでください。

[n=1,356]

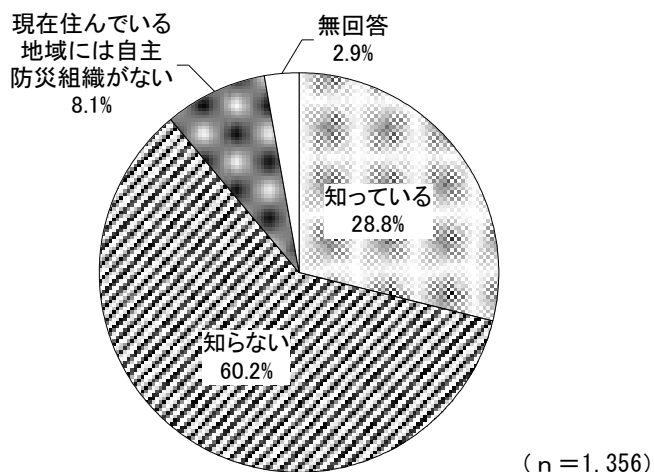


- ・全体でみると、「ラジオ」(76.9%)が8割近くで最も高く、次いで「テレビ」(63.8%)、「携帯電話」(49.0%)、「広報車」(28.9%)、「防災無線」(18.4%)、「パソコン」(10.3%)、「固定電話」(8.6%)の順となっている。
- ・性別でみると、「広報車」では〈女性〉(31.8%)が〈男性〉(25.8%)より6.0ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別でみると、「テレビ」では〈男女とも60～64歳以上の年代〉が7割から8割半ばと高くなっている。「携帯電話」では〈女性20歳代〉が65.4%と高くなっている。また、「広報車」では〈女性60～64歳〉が44.6%、〈男性65～69歳〉が43.6%と高くなっている。

(4) 自主防災組織の認知度

問20 あなたは、自主防災組織（※）について知っていますか。次の中から1つ選んでください。 [n=1,356]

※自主防災組織とは、自治会・町内会などを母体とした、地域住民が防災活動をする組織をいいます。

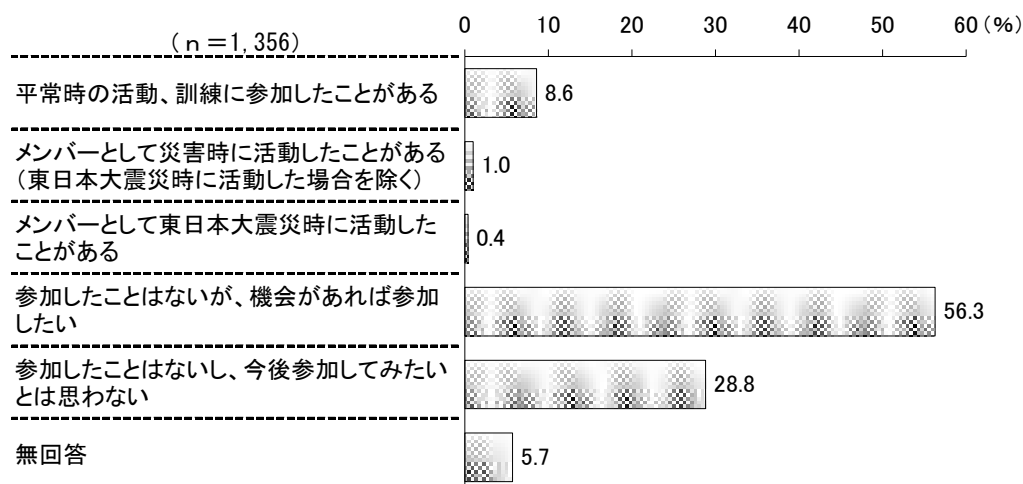


- ・全体でみると、「知っている」(28.8%)は3割近くで、「知らない」(60.2%)は6割となっている。また、「現在住んでいる地域には自主防災組織がない」(8.1%)は1割近くである。
- ・性別でみると、「知っている」では〈男性〉(30.7%)が〈女性〉(26.7%)より4.0ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別でみると、「知っている」では〈女性 65～69歳〉が44.1%、〈男性 60～64歳〉が43.4%、〈男性 65～69歳〉が41.0%と高くなっている。一方、〈女性 20歳代〉が11.5%、〈男性 20歳代〉が14.5%、〈女性 30歳代〉が15.8%と低くなっている。

(5) 自主防災組織の活動の参加状況

問21 あなたは、自主防災組織の活動に参加したことがありますか。
次の中からいくつでも選んでください。

[n=1,356]

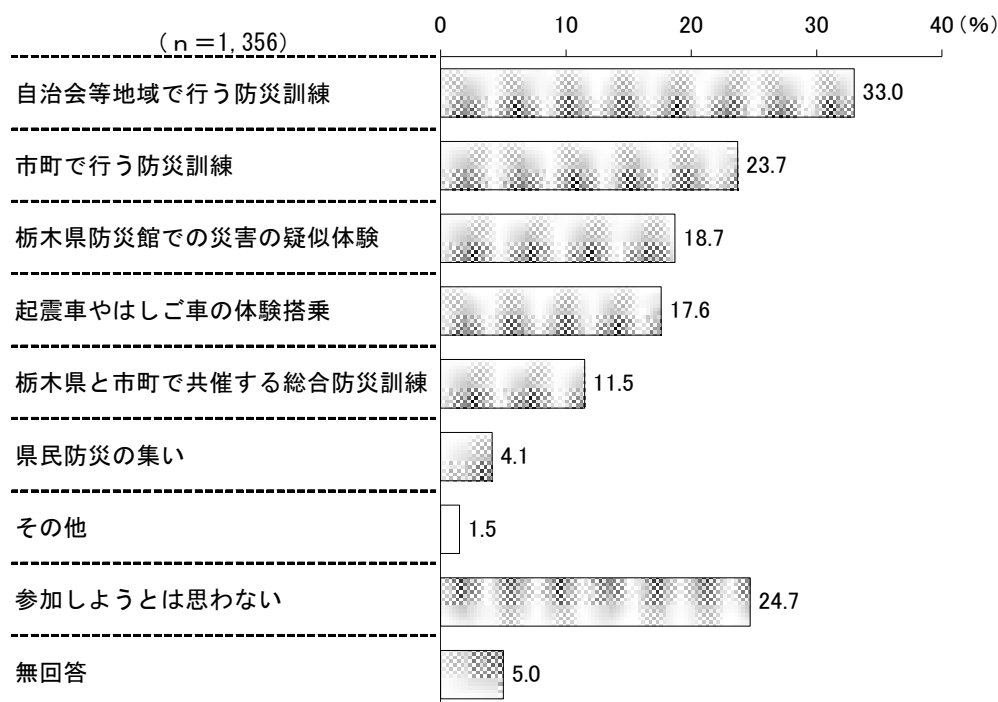


- ・全体でみると、「平常時の活動、訓練に参加したことがある」(8.6%)が1割近くで、これと「メンバーとして災害時に活動したことがある(東日本大震災時に活動した場合を除く)」(1.0%)、「メンバーとして東日本大震災時に活動したことがある」(0.4%)の3つを合わせた『参加経験あり』は9.2%となっている。また、「参加したことはないが、機会があれば参加したい」(56.3%)は5割半ばで、「参加したことはないし、今後参加してみたいとは思わない」(28.8%)は3割近くとなっている。
- ・性別でみると、「平常時の活動、訓練に参加したことがある」では〈男性〉(9.9%)が〈女性〉(6.6%)より3.3ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別でみると、「平常時の活動、訓練に参加したことがある」では〈女性65～69歳〉(20.6%)がほぼ2割、〈男性の60～64歳以上の各年代〉がいずれも1割半ばとなっている。

(6) 防災行事への参加意向

問22 あなたは、今後参加または見学してみたい防災行事がありますか。
次の中からいくつでも選んでください。

[n = 1,356]



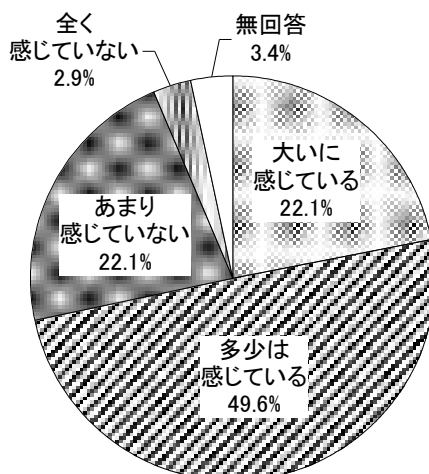
- ・全体でみると、「自治会等地域で行う防災訓練」(33.0%)が3割を超えて最も高く、次いで「市町で行う防災訓練」(23.7%)、「栃木県防災館での災害の疑似体験」(18.7%)、「起震車やはしご車の体験搭乗」(17.6%)、「栃木県と市町で共催する総合防災訓練」(11.5%)の順となっている。「参加しようと思わない」(24.7%)は2割半ばとなっている。
- ・性別でみると、「栃木県防災館での災害の疑似体験」では〈女性〉(22.5%)が〈男性〉(15.6%)より6.9ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別でみると、「自治会等地域で行う防災訓練」では〈女性 65~69歳〉が63.2%、「市町で行う防災訓練」では〈女性 60~64歳〉が38.6%、「栃木県防災館での災害の疑似体験」では〈女性 40歳代〉が43.6%、「起震車やはしご車の体験搭乗」では〈女性 30歳代〉が37.5%と高くなっている。

6 食の安全・安心について

(1) 食品の安全性に対する不安

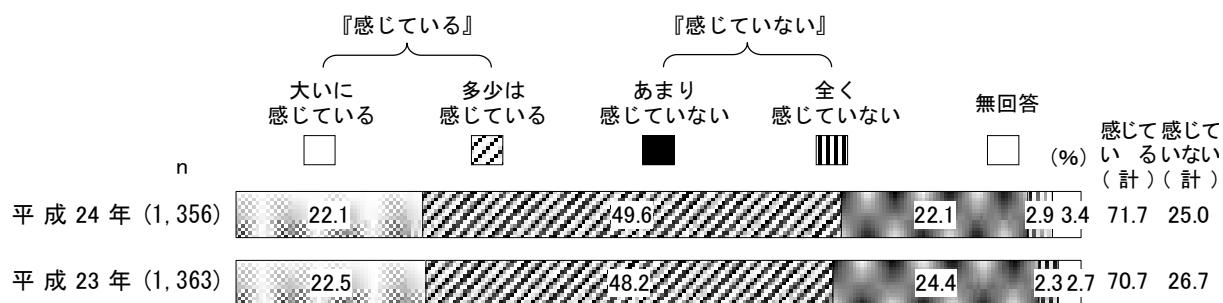
問23 あなたは、食品の安全性について、不安を感じていますか。
次の中から1つ選んでください。

[n = 1,356]



(n = 1,356)

- ・全体で見ると、「大いに感じている」(22.1%)と「多少は感じている」(49.6%)の2つを合わせた『感じている』(71.7%)は7割を超えている。一方、「あまり感じていない」(22.1%)と「全く感じていない」(2.9%)の2つを合わせた『感じていない』(25.0%)は2割半ばとなっている。
- ・性別で見ると、『感じている』では〈女性〉(79.2%)が〈男性〉(63.4%)より15.8ポイント高く、男女間の差が大きくなっている。
- ・性/年齢別で見ると、『感じている』では〈女性の30歳代から65~69歳の各年代〉でいずれも8割以上と高くなっている。



- ・前回(平成23年)の調査結果と比較すると、ほぼ同じ傾向になっている。

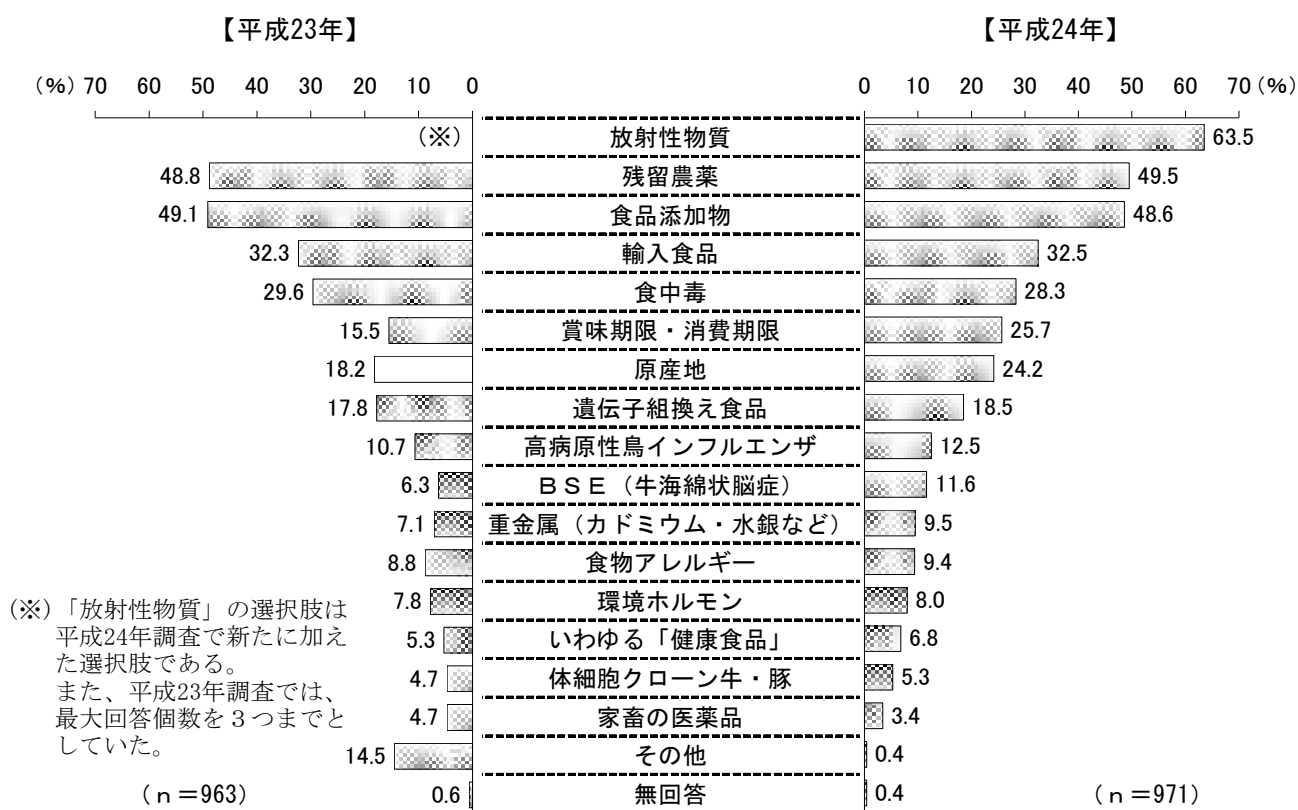
(1-1) 食品の安全性について不安に思うもの

(問23で「大いに感じている」、「多少は感じている」を選んだ方のみお答えください)

問23-1 あなたは、食品の安全性のどのような部分について不安を感じていますか。

次の中から4つまで選んでください。

[n=971]



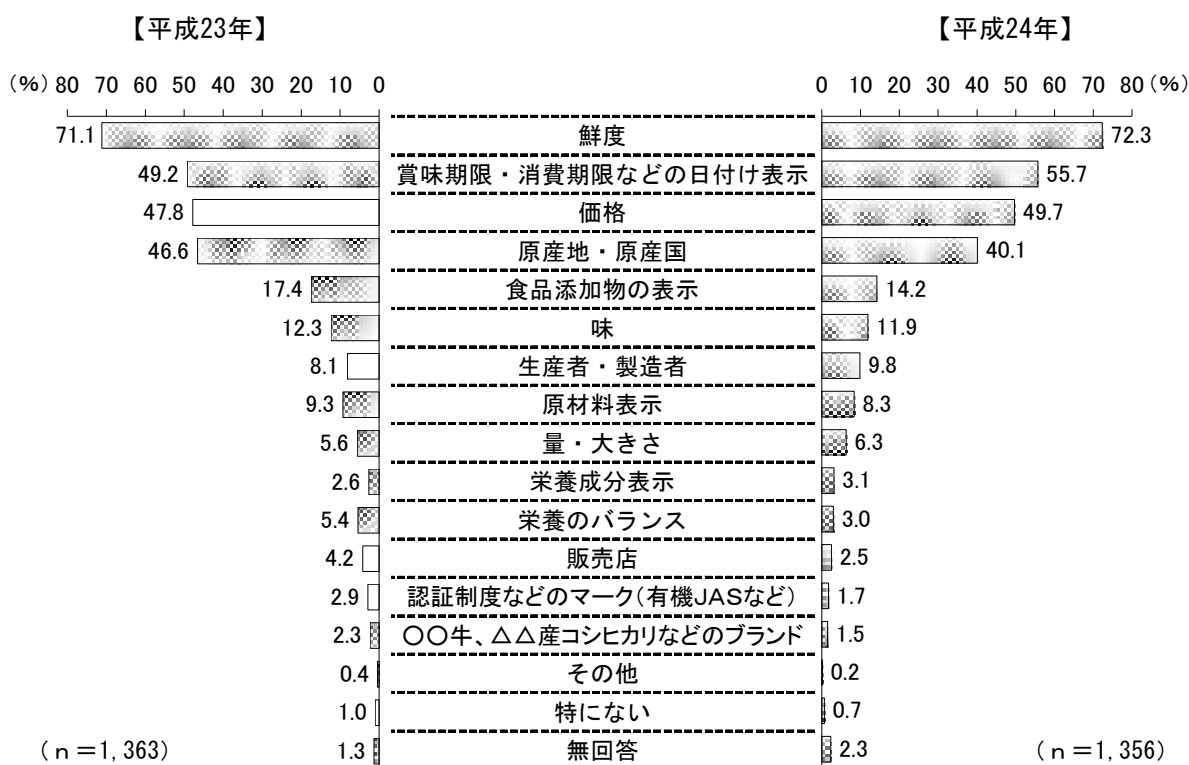
- ・全体で見ると、「放射性物質」(63.5%)が6割を超えて最も高く、次いで「残留農薬」(49.5%)、「食品添加物」(48.6%)、「輸入食品」(32.5%)、「食中毒」(28.3%)の順となっている。
- ・性別で見ると、「食品添加物」では〈女性〉(52.4%)が〈男性〉(42.9%)より9.5ポイント高く、「残留農薬」では〈女性〉(52.4%)が〈男性〉(45.9%)より6.5ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、「放射性物質」では〈女性30歳代〉が78.8%、〈女性40歳代〉が75.6%と高くなっている。「残留農薬」では〈男性60~64歳〉が64.9%、〈男性65~69歳〉が62.3%と高くなっている。「食品添加物」では〈女性の50歳代から65~69歳の各年代〉が6割以上と高くなっている。「輸入食品」では〈女性50歳代〉が44.0%と高くなっている。
- ・前回(平成23年)の調査結果との比較は、選択肢および最大回答個数が異なるため参考にとどまるが、前回調査で上位4位までにあげられていた「残留農薬」、「食品添加物」、「輸入食品」、「食中毒」の割合に大きな変化はみられない。

(2) 食品を購入するときに気を付けること

問24 あなたが食品を購入するときに気を付けることは何ですか。

次の中から3つまで選んでください。

[n=1,356]

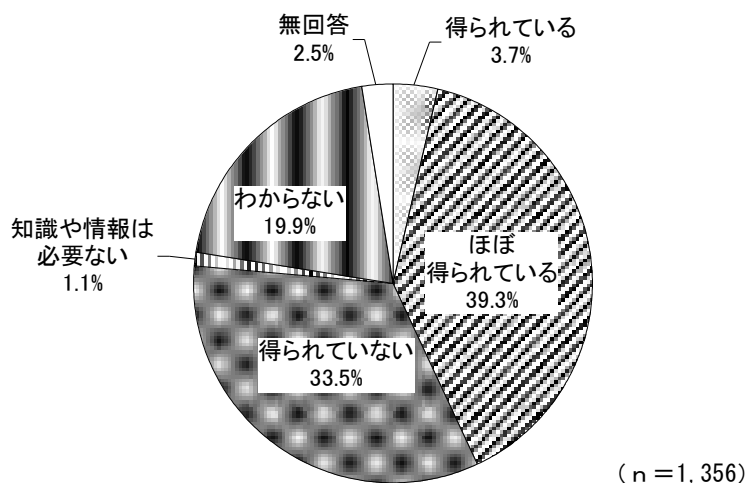


- ・全体で見ると、「鮮度」(72.3%)が7割を超えて最も高く、次いで「賞味期限・消費期限などの日付け表示」(55.7%)、「価格」(49.7%)、「原産地・原産国」(40.1%)の順となっている。
- ・性別で見ると、「原産地・原産国」では〈女性〉(45.5%)が〈男性〉(34.6%)より10.9ポイント高く、「味」では〈男性〉(16.1%)が〈女性〉(8.1%)より8.0ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、「鮮度」では〈女性60～64歳〉が86.7%と高くなっている。「価格」では〈女性20歳代〉が71.2%、〈男性20歳代〉が70.9%と高くなっている。「原産地・原産国」では〈女性30歳代〉が54.2%、「味」では〈男性20歳代〉が27.3%と高くなっている。「量・大きさ」では〈男性20歳代〉が20.0%、〈女性20歳代〉が17.3%となっている。
- ・前回(平成23年)の調査結果と比較すると、「賞味期限・消費期限などの日付け表示」は6.5ポイント増加し、「原産地・原産国」は6.5ポイント減少している。

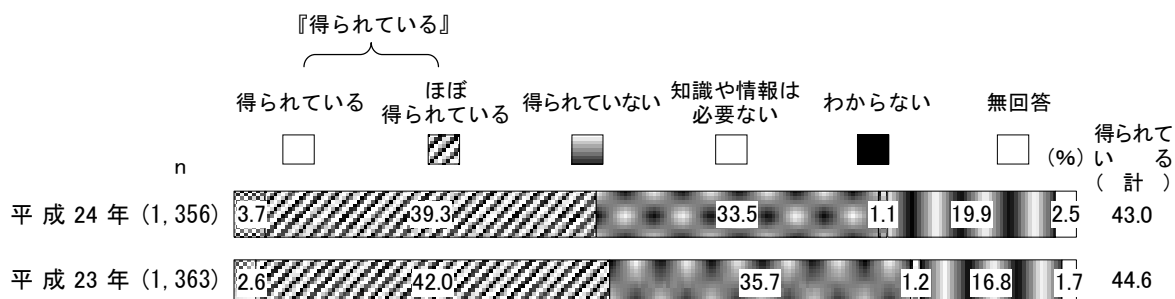
(3) 食の安全に関する知識や情報の取得

問25 あなたは、食の安全に関する正しい知識や情報を得られていると思いますか。
次の中から1つ選んでください。

[n = 1,356]



- ・全体で見ると、「得られている」(3.7%)と「ほぼ得られている」(39.3%)の2つを合わせた『得られている』(43.0%)は4割を超えている。一方、「得られていない」(33.5%)は3割を超えている。
- ・性別で見ると、「得られていない」では〈男性〉(36.1%)が〈女性〉(31.5%)より4.6ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、『得られている』では〈男性70歳以上〉で58.3%、〈女性65～69歳〉で57.4%、〈女性70歳以上〉で56.1%と高くなっている。

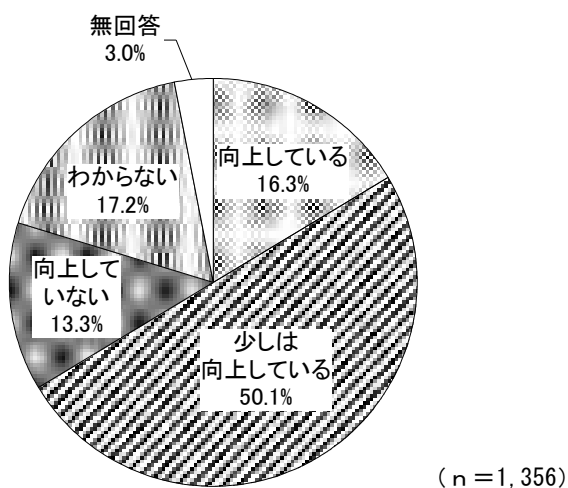


- ・前回(平成23年)の調査結果と比較すると、ほぼ同じ傾向になっている。

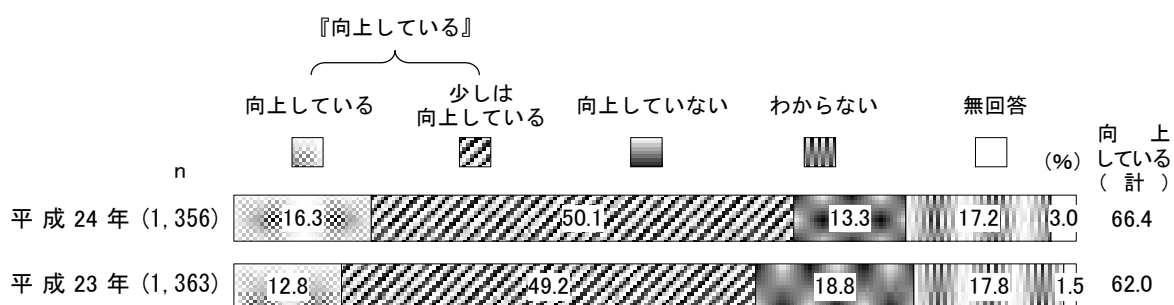
(4) 食品の安全性の向上

問26 食品の安全性は向上していると思いますか。次の中から1つ選んでください。

[n=1,356]



- ・全体で見ると、「向上している」(16.3%)と「少しは向上している」(50.1%)の2つを合わせた『向上している』(66.4%)は6割半ばとなっている。一方、「向上していない」(13.3%)は1割を超えている。
- ・性別で見ると、『向上している』では〈男性〉(69.4%)が〈女性〉(64.1%)より5.3ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、『向上している』では〈男性70歳以上〉で80.4%、〈男性65～69歳〉で79.5%、〈女性70歳以上〉で77.0%と高くなっている。



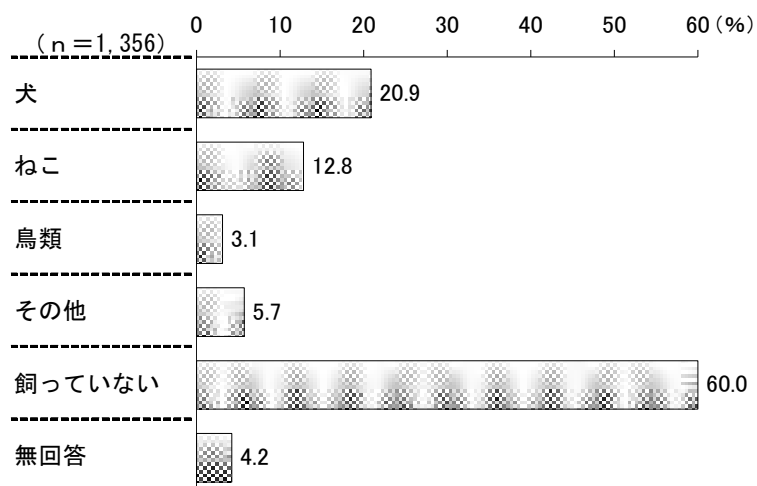
- ・前回(平成23年)の調査結果と比較すると、『向上している』は4.4ポイント増加し、「向上していない」は5.5ポイント減少している。

7 動物愛護について

(1) 動物の飼育状況

問27 あなたは、現在動物を飼育していますか。次の中からいくつでも選んでください。

[n = 1, 356]



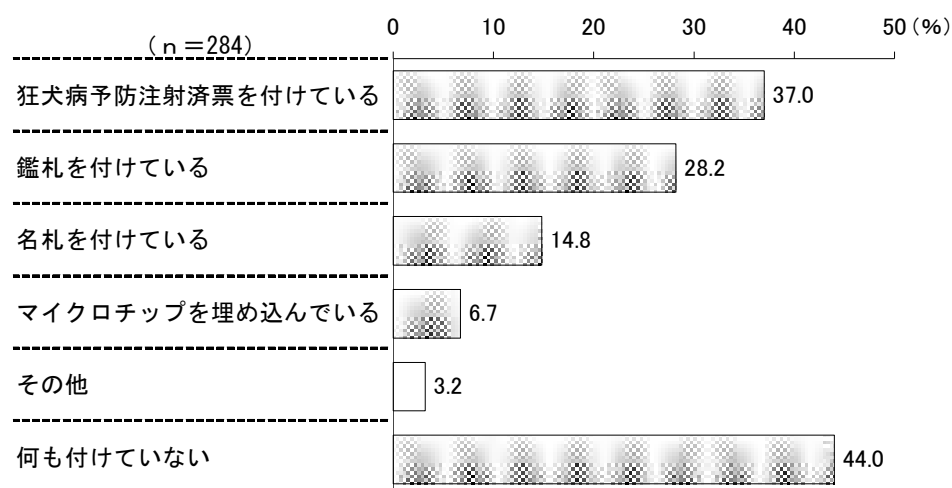
- ・全体でみると、「犬」(20.9%)がほぼ2割、「ねこ」(12.8%)が1割を超え、「鳥類」が3.1%となっている。「飼っていない」(60.0%)は6割となっている。
- ・性別でみると、「犬」では〈女性〉(22.8%)が〈男性〉(19.1%)より3.7ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別でみると、「犬」では〈女性50歳代〉が38.1%、〈女性20歳代〉が30.8%と他の年代に比べて高くなっている。「飼っていない」では〈男性20歳代〉が69.1%となっている。

(1-1) 飼い犬の個体識別措置の実施状況

(問27で「犬」を選んだ方のみお答えください)

問27-1 あなたは飼い犬に対し、個体識別措置(※)を講じていますか。次の中からいくつでも選んでください。 [n=284]

※ 個体識別措置とは、鑑札や名札等を付けて、飼い主が分かるようにしておくことをいいます。



- ・全体でみると、「狂犬病予防注射済票を付けている」(37.0%)が4割近くで最も高く、次いで「鑑札を付けている」(28.2%)、「名札を付けている」(14.8%)、「マイクロチップを埋め込んでいる」(6.7%)の順となっている。一方、「何も付けていない」(44.0%)は4割半ばとなっている。
- ・性別でみると、「狂犬病予防注射済票を付けている」では〈女性〉(40.0%)が〈男性〉(33.9%)より6.1ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別でみると、「狂犬病予防注射済票を付けている」では〈女性 60~64歳代〉が57.9%、〈女性 70歳以上〉が52.2%となっている。また、「鑑札を付けている」では〈女性 70歳以上〉が52.2%となっている。「何も付けていない」では〈男性 40歳代〉が57.9%となっている。

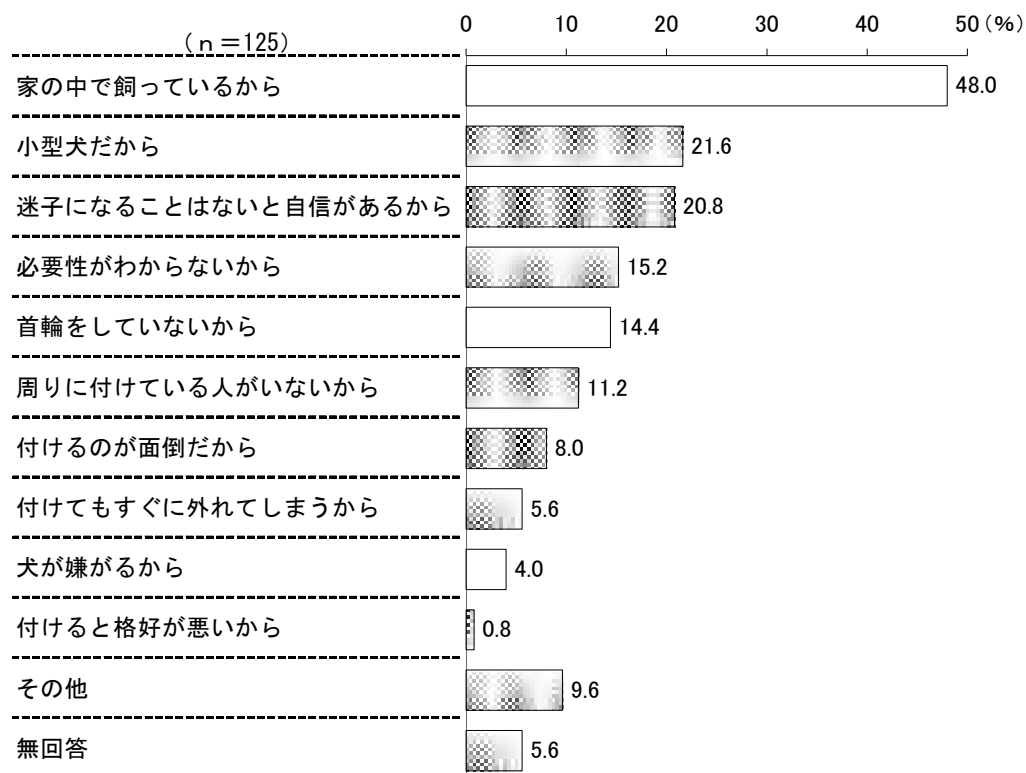
(1-1-1) 個体識別措置を行っていない理由

(問27-1で「何も付けていない」を選んだ方のみお答えください)

問27-1-1 あなたが飼い犬に何も付けていない理由は何ですか。

次の中からいくつでも選んでください。

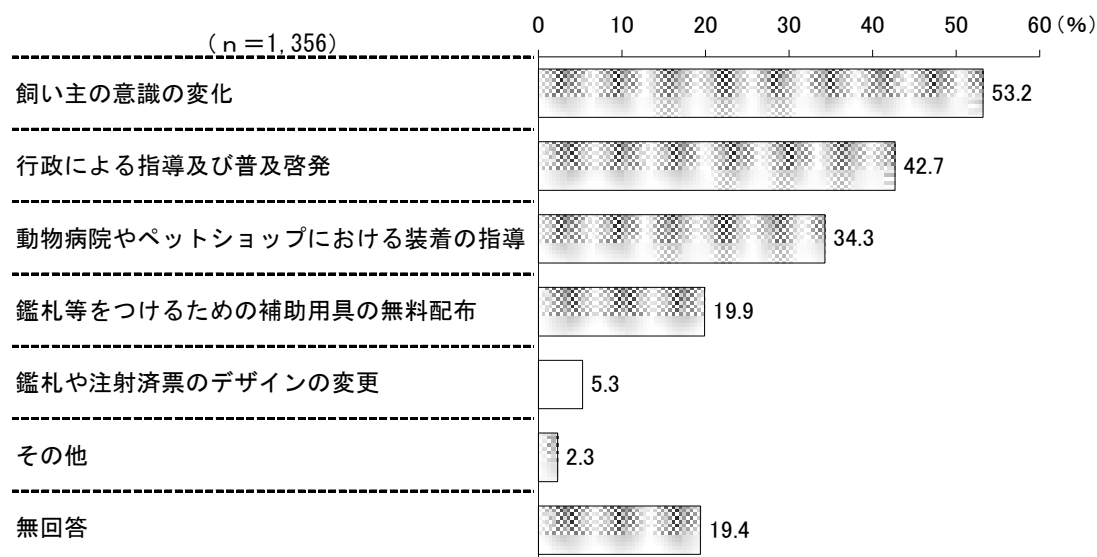
[n=125]



- ・全体でみると、「家の中で飼っているから」(48.0%)が5割近くで最も高く、次いで「小型犬だから」(21.6%)、「迷子になることはない自信があるから」(20.8%)、「必要性がわからないから」(15.2%)、「首輪をしていないから」(14.4%)の順となっている。
- ・性別でみると、「家の中で飼っているから」では〈男性〉(50.9%)が〈女性〉(43.3%)より7.6ポイント高く、「迷子になることはない自信があるから」では〈女性〉(23.9%)が〈男性〉(16.4%)より7.5ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別でみると、「家の中で飼っているから」では〈男性60~64歳〉が77.8%となっている。

(2) 個体識別措置を行う飼い主を増やすための取り組み

問28 あなたは、犬の個体識別措置を行う人が増えるには何が必要だと考えますか。
次の中からいくつでも選んでください。 [n = 1,356]



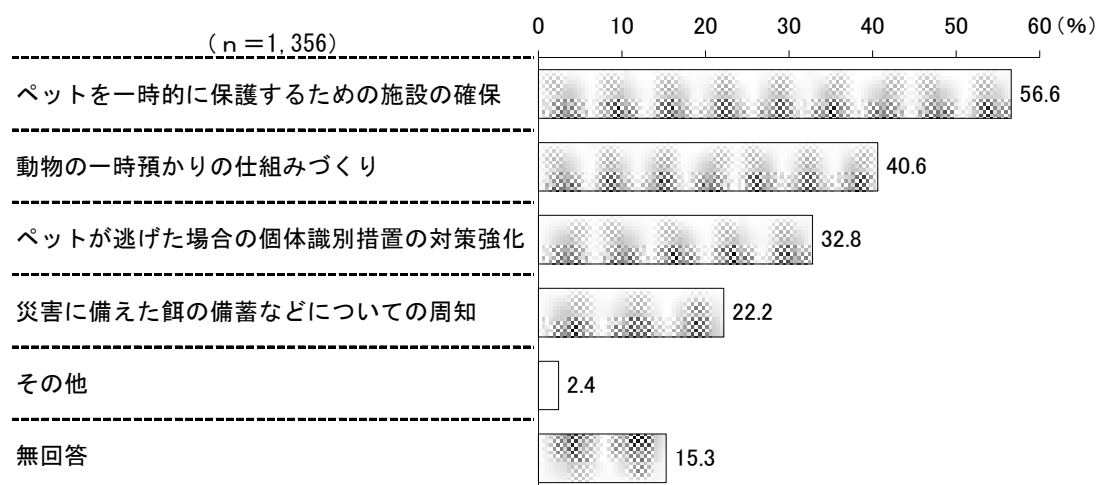
- ・全体で見ると、「飼い主の意識の変化」(53.2%)が5割を超えて最も高く、次いで「行政による指導及び普及啓発」(42.7%)、「動物病院やペットショップにおける装着の指導」(34.3%)、「鑑札等をつけるための補助用具の無料配布」(19.9%)、「鑑札や注射済票のデザインの変更」(5.3%)の順となっている。
- ・性別で見ると、「鑑札等をつけるための補助用具の無料配布」では〈女性〉(22.2%)が〈男性〉(17.8%)より4.4ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、「飼い主の意識の変化」では〈女性30歳代〉が67.5%、〈男性30歳代〉が65.5%と高くなっている。「動物病院やペットショップにおける装着の指導」では〈女性20歳代〉が63.5%、「鑑札等をつけるための補助用具の無料配布」では〈女性40歳代〉が35.6%と高くなっている。

(3) 災害時のペット対策として必要なこと

問29 あなたは、災害が発生した際のペット対策として何が必要だと考えますか。

次の中からいくつでも選んでください。

[n = 1,356]



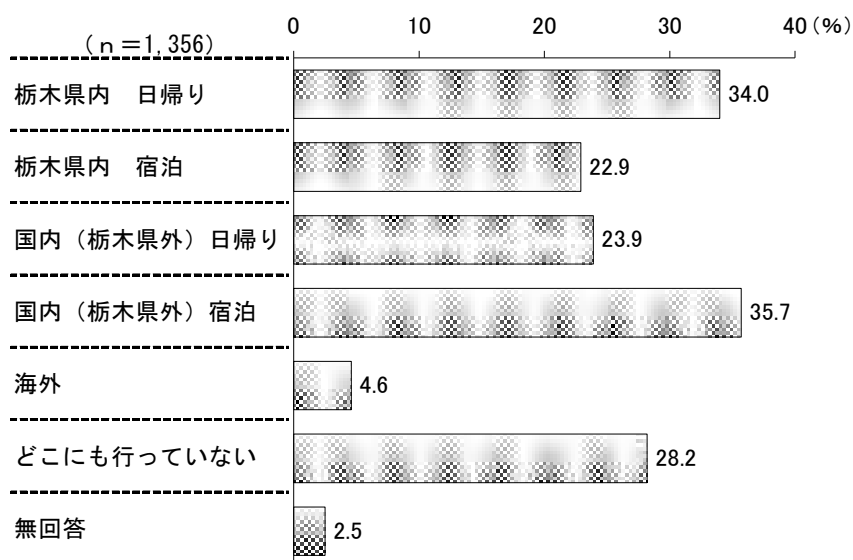
- ・全体でみると、「ペットを一時的に保護するための施設の確保」(56.6%)が6割近くで最も高く、次いで「動物の一時預かりの仕組みづくり」(40.6%)、「ペットが逃げた場合の個体識別措置の対策強化」(32.8%)、「災害に備えた餌の備蓄などについての周知」(22.2%)の順となっている。
- ・性別でみると、「災害に備えた餌の備蓄などについての周知」では〈女性〉(26.7%)が〈男性〉(17.8%)より8.9ポイント高く、「ペットを一時的に保護するための施設の確保」では〈女性〉(61.3%)が〈男性〉(52.8%)より8.5ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別でみると、「災害に備えた餌の備蓄などについての周知」では〈女性20歳代〉が36.5%、「動物の一時預かりの仕組みづくり」では〈女性60~64歳〉が53.0%、「ペットが逃げた場合の個体識別措置の対策強化」では〈女性20歳代〉が48.1%と高くなっている。

8 観光について

(1) 昨年の旅行の行き先

問30 あなたは、昨年（1月～12月）、旅行に行きましたか。
次の中からいくつでも選んでください。

[n = 1,356]



- ・全体で見ると、「栃木県内 日帰り」(34.0%)が3割半ば、「栃木県内 宿泊」(22.9%)が2割を超えており、この2つを合わせた『県内』(43.7%)は4割を超えている(※注)。また、「国内(栃木県外)日帰り」(23.9%)は2割を超え、「国内(栃木県外)宿泊」(35.7%)は3割半ばであり、この2つを合わせた『県外』(50.8%)はほぼ5割となっている(※注)。「海外」は4.6%で、「どこにも行ってない」(28.2%)は3割近くである。
- ・性別で見ると、「栃木県内 宿泊」では〈女性〉(25.2%)が〈男性〉(20.2%)より5.0ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、「栃木県内 日帰り」では〈男性 65～69歳〉が47.4%、「栃木県内 宿泊」では〈女性 65～69歳〉が38.2%、「国内(栃木県外)日帰り」では〈女性 20歳代〉が42.3%、「国内(栃木県外)宿泊」では〈女性 30歳代〉が51.7%となっている。「どこにも行ってない」では〈男性 40歳代〉が37.6%となっている。

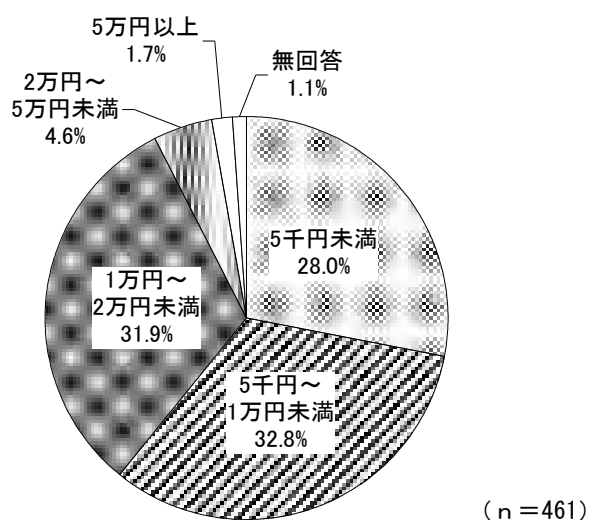
(※注) 『県内』は「栃木県内 日帰り」「栃木県内 宿泊」のどちらか一方または双方を答えた人の割合を示す。どちらか一方を選択した人も、双方選択した人も、同様にひとりとして数えているため、2つの選択肢の比率の合計とは等しくならない。

同様に『県外』は「国内(栃木県外)日帰り」「国内(栃木県外)宿泊」のどちらか一方または双方を答えた人の割合を示す。どちらか一方を選択した人も、双方選択した人も、同様にひとりとして数えているため、2つの選択肢の比率の合計とは等しくならない。

(1-1) 県内の日帰り旅行での消費額

(問30で「栃木県内 日帰り」を選んだ方のみお答えください)

問30-1 栃木県内を日帰り旅行した際、観光地において消費した額はどのくらいですか。交通費・土産代・食事代・施設入場料等すべてを含んだ1人1回当たりの額を、次の中から1つ選んでください。 [n=461]

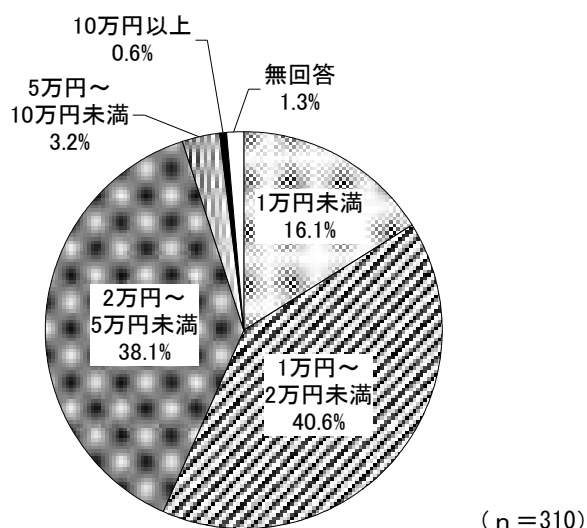


- ・全体で見ると、「5千円～1万円未満」が32.8%、「1万円～2万円未満」が31.9%、「5千円未満」が28.0%となっている。
- ・性別で見ると、「5千円未満」では〈男性〉(32.7%)が〈女性〉(24.3%)より8.4ポイント高くなっている。また、「5千円～1万円未満」では〈女性〉(37.7%)が〈男性〉(26.9%)より10.8ポイント高く、「1万円～2万円未満」では〈男性〉(35.6%)が〈女性〉(28.5%)より7.1ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、「5千円未満」では〈男性40歳代〉が47.4%、「5千円～1万円未満」では〈女性65～69歳〉が57.7%、「1万円～2万円未満」では〈男性30歳代〉が48.5%となっている。

(1-2) 県内の宿泊旅行での消費額

(問30で「栃木県内 宿泊」を選んだ方のみお答えください)

問30-2 栃木県内を宿泊旅行した際、観光地において消費した額はどのくらいですか。宿泊費・交通費・土産代・食事代・施設入場料等すべてを含んだ1人1回当たりの額を、次の中から1つ選んでください。 [n=310]

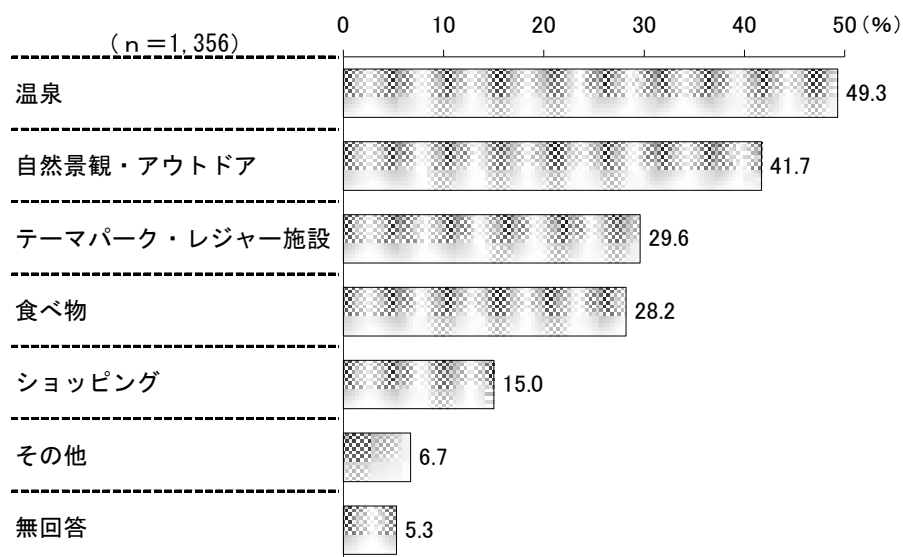


- ・全体で見ると、「1万円～2万円未満」(40.6%)がほぼ4割、「2万円～5万円未満」(38.1%)が4割近くで高く、次いで「1万円未満」(16.1%)が1割半ばとなっている。
- ・性別で見ると、「1万円未満」では〈男性〉(19.5%)が〈女性〉(13.5%)より6.0ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、「1万円未満」では〈男性20歳代〉が33.3%、「1万円～2万円未満」では〈女性65～69歳〉が57.7%、「2万円～5万円未満」では〈男性30歳代〉が64.3%となっている。

(2) 旅行に出かける目的

問31 あなたが旅行に出かける際の主な目的は何ですか。次の中から2つまで選んでください。

[n = 1,356]



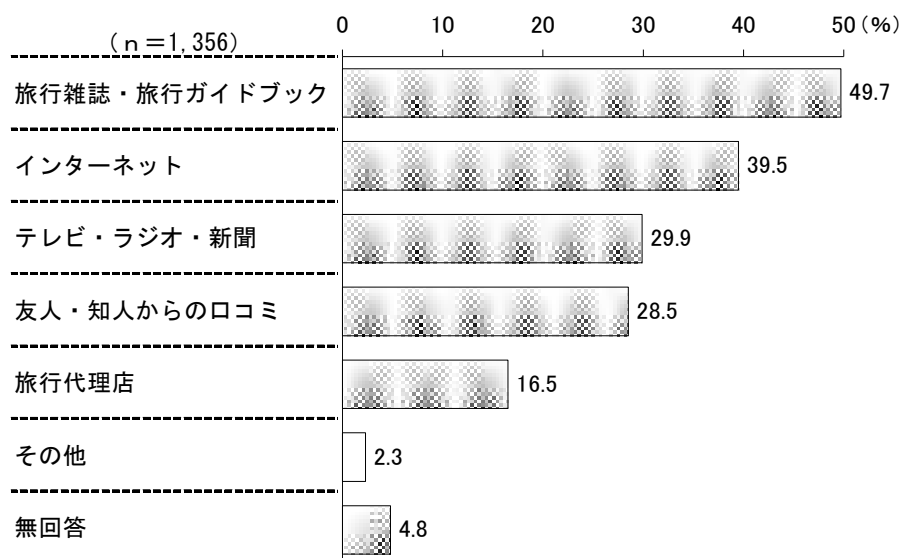
- ・全体で見ると、「温泉」(49.3%)がほぼ5割で最も高く、次いで「自然景観・アウトドア」(41.7%)、「テーマパーク・レジャー施設」(29.6%)、「食べ物」(28.2%)、「ショッピング」(15.0%)の順となっている。
- ・性別で見ると、「自然景観・アウトドア」では〈男性〉(44.7%)が〈女性〉(39.5%)より5.2ポイント高くなっている。「食べ物」では〈女性〉(30.9%)が〈男性〉(25.7%)より5.2ポイント、「ショッピング」では〈女性〉(17.5%)が〈男性〉(12.4%)より5.1ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、「温泉」では〈女性の60～64歳以上の各年代〉と〈男性70歳以上〉が6割以上と高くなっている。「テーマパーク・レジャー施設」では〈女性30歳代〉が61.7%と高くなっている。「ショッピング」では〈女性20歳代〉が40.4%と高くなっている。

(3) 旅行に関する情報を得る手段

問32 旅行に出かける際には、あなたは、主にどこから情報を得ますか。

次の中から2つまで選んでください。

[n = 1,356]



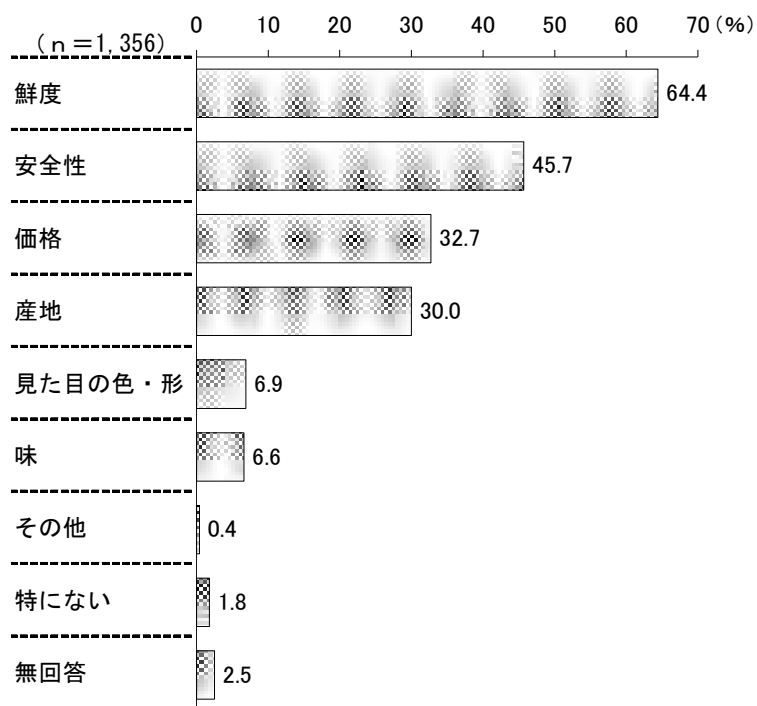
- ・全体で見ると、「旅行雑誌・旅行ガイドブック」(49.7%)が5割で最も高く、次いで「インターネット」(39.5%)、「テレビ・ラジオ・新聞」(29.9%)、「友人・知人からの口コミ」(28.5%)、「旅行代理店」(16.5%)の順となっている。
- ・性別で見ると、「インターネット」では〈男性〉(42.8%)が〈女性〉(37.3%)より5.5ポイント高く、「友人・知人からの口コミ」では〈女性〉(31.8%)が〈男性〉(25.8%)より6.0ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、「旅行雑誌・旅行ガイドブック」では〈女性20歳代〉が67.3%と高くなっている。「インターネット」では〈男女とも20歳代から40歳の年代〉が6割から7割半ばと高くなっている。「テレビ・ラジオ・新聞」では〈男性65~69歳〉が53.8%と高くなっている。「友人・知人からの口コミ」では〈女性70歳以上〉が50.4%と高くなっている。

9 県産農産物への放射性物質の影響について

(1) 農産物を購入するとき重視していること

問33 農産物を購入する際、あなたが重視していることは何ですか。
次の中から2つ選んでください。

[n = 1,356]



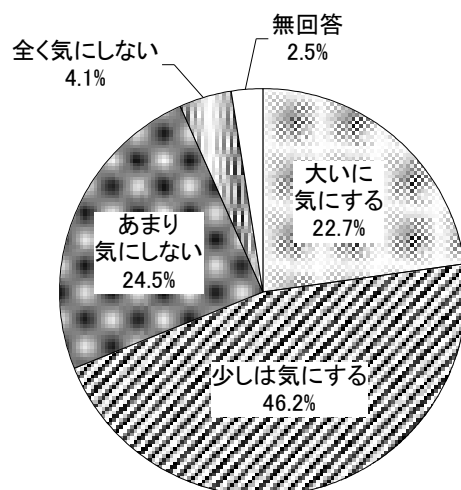
- ・全体でみると、「鮮度」(64.4%)が6割半ばで最も高く、次いで「安全性」(45.7%)、「価格」(32.7%)、「産地」(30.0%)、「見た目の色・形」(6.9%)、「味」(6.6%)の順となっている。
- ・性別でみると、「産地」では〈女性〉(33.6%)が〈男性〉(25.8%)より7.8ポイント高く、「安全性」では〈女性〉(48.3%)が〈男性〉(43.0%)より5.3ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別でみると、「安全性」では〈女性60～64歳〉が63.9%、〈女性65～69歳〉が61.8%と高くなっている。「価格」では〈男性20歳代〉が49.1%、〈女性の20歳代から40歳代の各年代〉で4割から4割半ばとなっている。

(2) 農産物への放射性物質の影響についての意識

問34 農産物を購入する際、あなたは放射性物質の影響を気にしていますか。

次の中から1つ選んでください。

[n = 1,356]

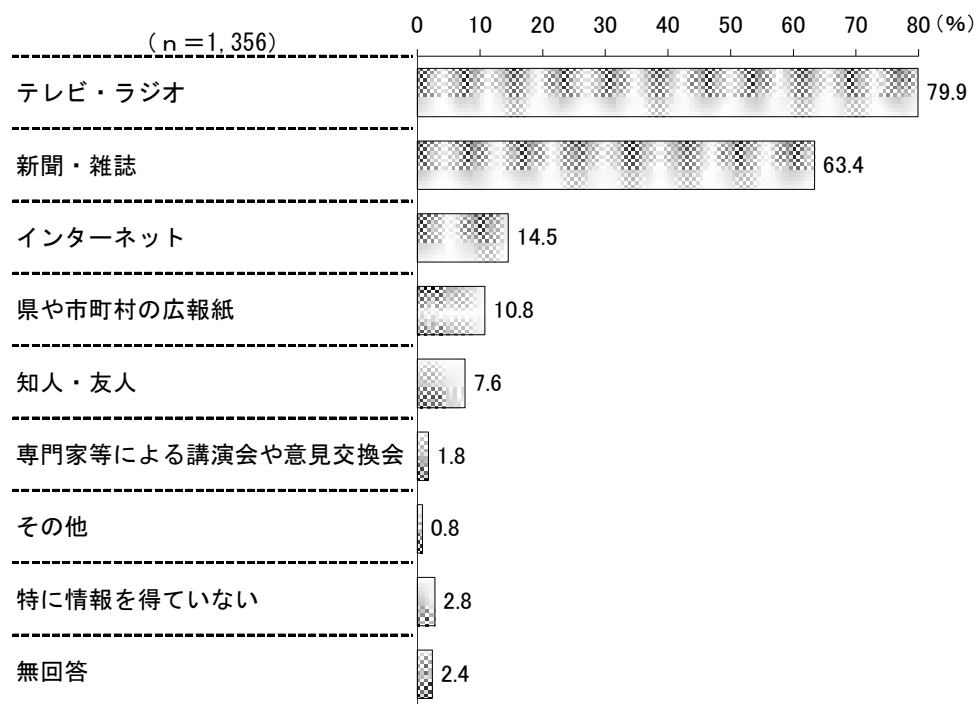


(n = 1,356)

- ・全体で見ると、「大いに気にする」(22.7%)と「少しは気にする」(46.2%)の2つを合わせた『気にする』(68.9%)が7割近くとなっている。一方、「あまり気にしない」(24.5%)と「全く気にしない」(4.1%)の2つを合わせた『気にしない』(28.6%)は3割近くとなっている。
- ・性別で見ると、『気にする』では〈女性〉(74.8%)が〈男性〉(62.5%)より12.3ポイント高く、『気にしない』では〈男性〉(35.3%)が〈女性〉(22.8%)より12.5ポイント高く、男女間の差が大きくなっている。
- ・性/年齢別で見ると、『気にする』では〈女性60～64歳〉が83.1%と高くなっている。一方、『気にしない』では〈男性20歳代〉が50.9%と高くなっている。

(3) 放射性物質に関する知識や情報を得る手段

問35 あなたは、放射性物質に関する知識や情報を主にどこから得ていますか。次の中から2つ選んでください。 [n=1,356]

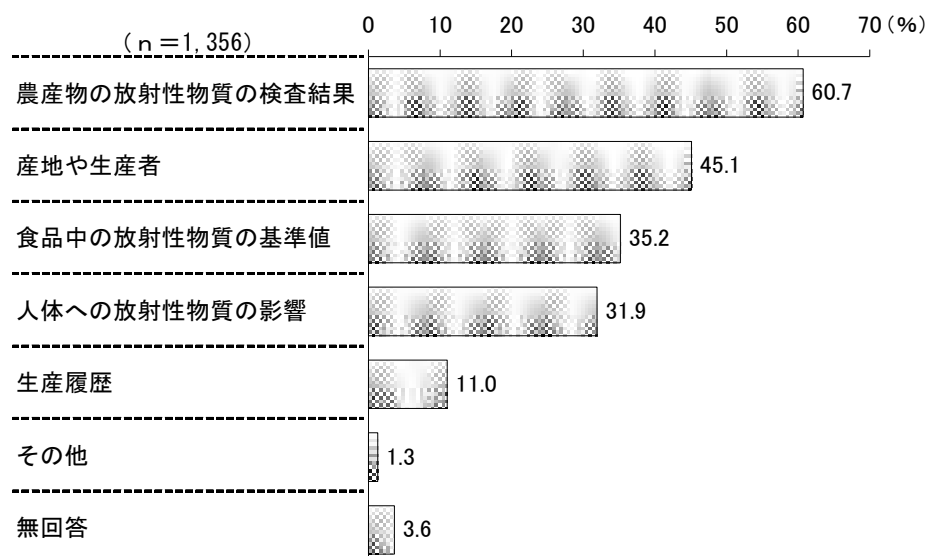


- ・全体でみると、「テレビ・ラジオ」(79.9%)が8割、「新聞・雑誌」(63.4%)が6割を超えて高く、次いで「インターネット」(14.5%)、「県や市町村の広報紙」(10.8%)、「知人・友人」(7.6%)の順となっている。
- ・性別でみると、「インターネット」では〈男性〉(17.8%)が〈女性〉(11.8%)より6.0ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別でみると、「新聞・雑誌」では〈男性の60～64歳以上の各年代〉と〈女性の60～64歳と65～69歳の各年代〉が7割以上と高くなっている。また、「インターネット」では〈男性20歳代〉が38.2%と高くなっている。

(4) 農産物を安心して購入するために必要な情報

問36 あなたは、どのような情報があれば、農産物を安心して購入できますか。
次の中から2つ選んでください。

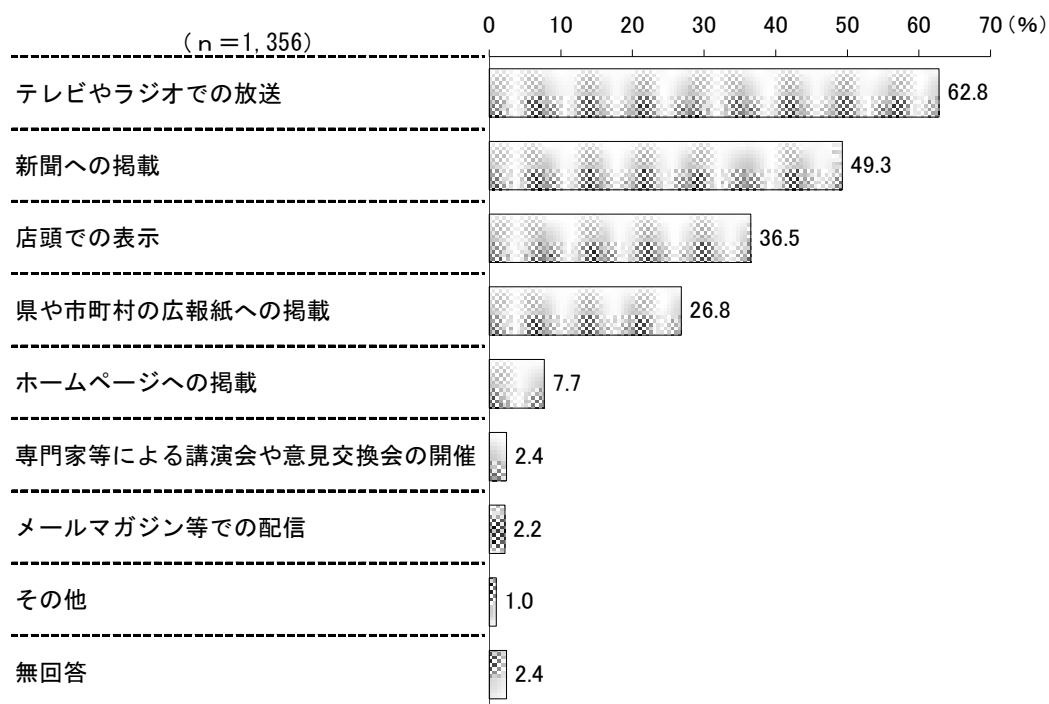
[n=1,356]



- ・全体でみると、「農産物の放射性物質の検査結果」(60.7%)がほぼ6割で最も高く、次いで「産地や生産者」(45.1%)、「食品中の放射性物質の基準値」(35.2%)、「人体への放射性物質の影響」(31.9%)、「生産履歴」(11.0%)の順となっている。
- ・性別でみると、「農産物の放射性物質の検査結果」では〈女性〉(63.3%)が〈男性〉(58.0%)より5.3ポイント高くなっている。「生産履歴」では〈男性〉(15.0%)が〈女性〉(7.2%)より7.8ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別でみると、「農産物の放射性物質の検査結果」では〈女性30歳代〉が69.2%、〈女性40歳代〉が68.3%と高くなっている。「食品中の放射性物質の基準値」では〈女性60～64歳〉が47.0%、「人体への放射性物質の影響」では〈女性20歳代〉が46.2%と高くなっている。

(5) 放射性物質の影響を知るために今後利用したい情報入手手段

問37 放射性物質の健康や食品への影響を知るために、今後どこからの情報提供を望みますか。次の中から2つ選んでください。 [n=1,356]



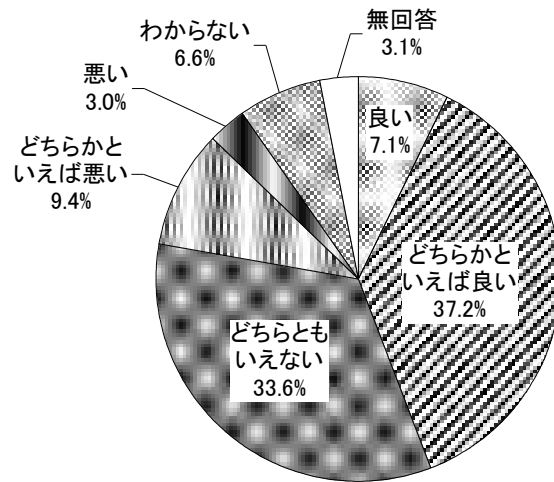
- ・全体で見ると、「テレビやラジオでの放送」(62.8%)が6割を超えて最も高く、次いで「新聞への掲載」(49.3%)、「店頭での表示」(36.5%)、「県や市町村の広報紙への掲載」(26.8%)、「ホームページへの掲載」(7.7%)の順となっている。
- ・性別で見ると、「新聞への掲載」では〈男性〉(53.2%)が〈女性〉(46.2%)より7.0ポイント高くなっている。「店頭での表示」では〈女性〉(39.5%)が〈男性〉(33.5%)より6.0ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、「テレビやラジオでの放送」では〈女性 65～69歳〉で70.6%、〈男性 70歳以上〉で70.1%と高くなっている。「新聞への掲載」では〈女性 65～69歳代〉が63.2%と高くなっている。「店頭での表示」では〈女性の20歳代から50歳代の各年代〉がいずれも5割前後と高くなっている。「県や市町村の広報紙への掲載」では〈女性 70歳以上〉が41.0%と高くなっている。

10 犯罪と治安対策について

(1) 県内の治安状況

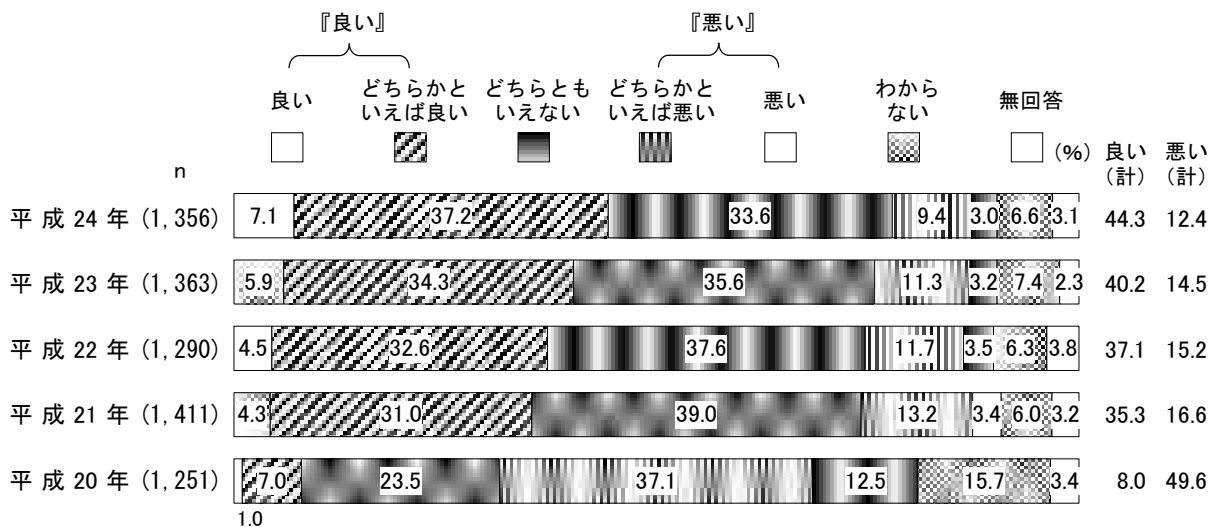
問38 あなたは、県内の治安についてどう感じますか。次の中から1つ選んでください。

[n = 1, 356]



(n = 1, 356)

- ・全体で見ると、「良い」(7.1%)と「どちらかといえば良い」(37.2%)の2つを合わせた『良い』(44.3%)が4割半ばとなっている。一方、「どちらかといえば悪い」(9.4%)と「悪い」(3.0%)の2つを合わせた『悪い』(12.4%)は1割を超えている。また、「どちらともいえない」(33.6%)は3割を超えている。
- ・性別で見ると、『良い』では〈男性〉(47.7%)が〈女性〉(41.8%)より5.9ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、『良い』では〈男性20歳代〉が56.3%、〈男性50歳代〉が55.7%と高くなっている。

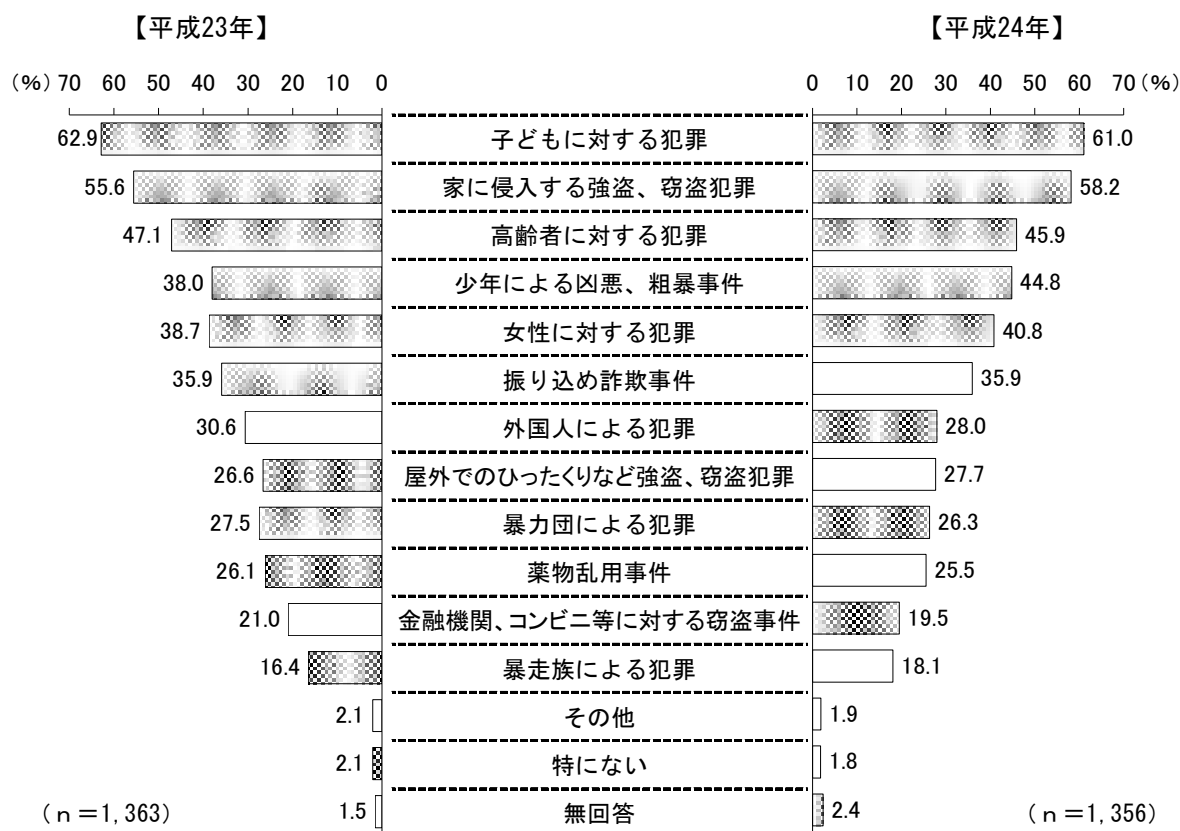


- ・過去の調査結果と比較すると、『良い』は増加傾向にあり、前回(平成23年)と比べて4.1ポイント増加している。

(2) 不安を感じる犯罪

問39 あなたは、どのような犯罪に不安を感じますか。次の中からいくつでも選んでください。

[n = 1, 356]



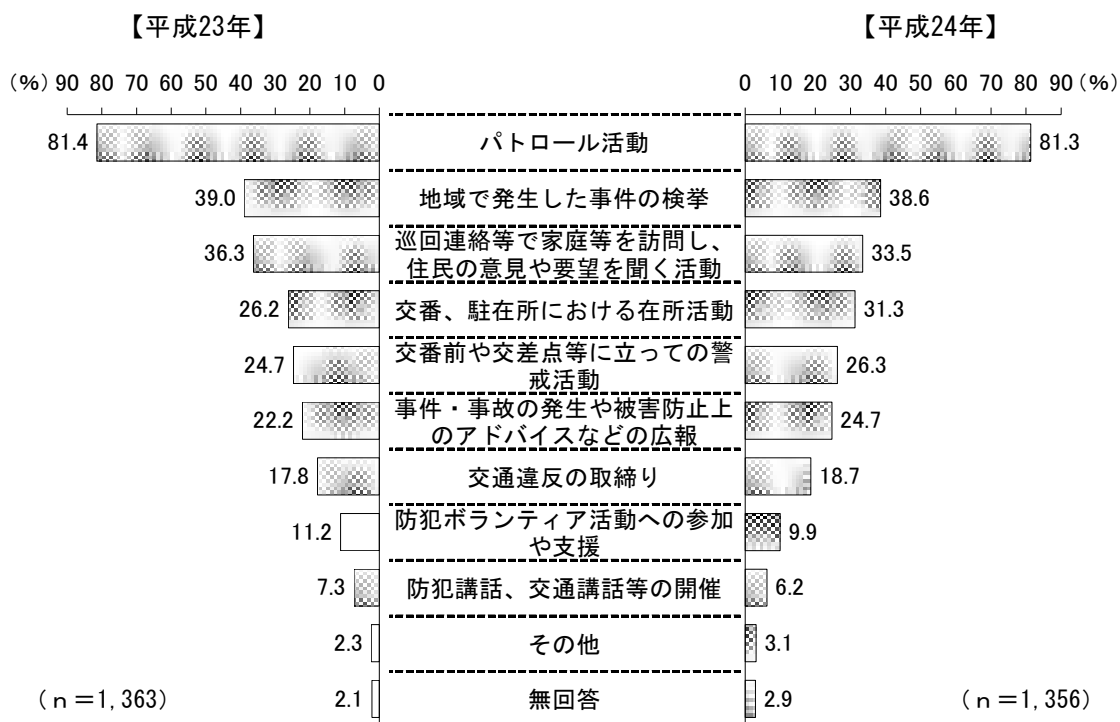
- ・全体で見ると、「子どもに対する犯罪」(61.0%)が6割を超えて最も高く、次いで「家に侵入する強盗、窃盗犯罪」(58.2%)、「高齢者に対する犯罪」(45.9%)、「少年による凶悪、粗暴事件」(44.8%)、「女性に対する犯罪」(40.8%)、「振り込め詐欺事件」(35.9%)の順となっている。
- ・性別で見ると、「女性に対する犯罪」では〈女性〉(47.6%)が〈男性〉(33.5%)より14.1ポイント、「屋外でのひったくりなど強盗、窃盗犯罪」では〈女性〉(33.3%)が〈男性〉(21.3%)より12.0ポイント高く、男女間の差が大きくなっている。
- ・性/年齢別で見ると、「子どもに対する犯罪」では〈女性30歳代〉が89.2%、「高齢者に対する犯罪」では〈女性70歳以上〉が74.8%、「少年による凶悪、粗暴事件」では〈男性40歳代〉が56.5%、「女性に対する犯罪」では〈女性20歳代〉が69.2%、「振り込め詐欺事件」では〈女性60~64歳〉が54.2%と高くなっている。
- ・前回(平成23年)の調査結果と比較すると、「少年による凶悪、粗暴事件」が6.8ポイント増加している。

(3) 交番や駐在所の警察官に特に力を入れてほしい活動

問40 あなたが、交番や駐在所の警察官に特に力を入れてほしい活動は何ですか。

次の中からいくつでも選んでください。

[n=1,356]



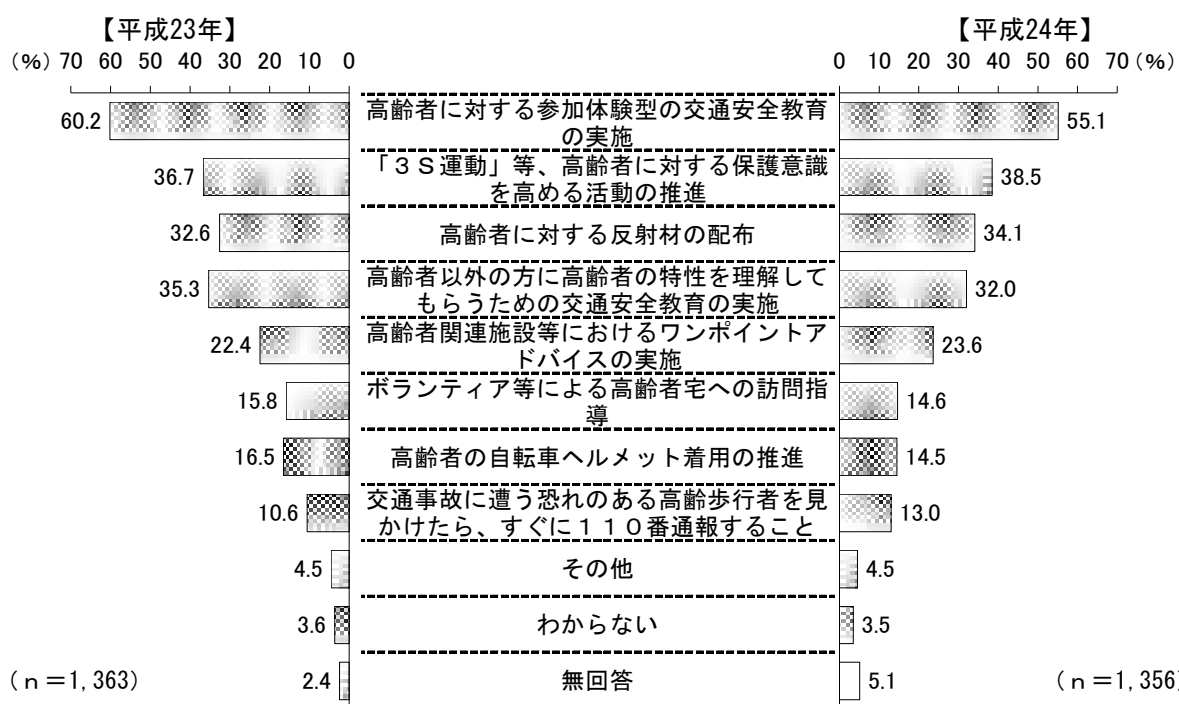
- ・全体で見ると、「パトロール活動」(81.3%)が8割を超えて最も高く、次いで「地域で発生した事件の検挙」(38.6%)、「巡回連絡等で家庭等を訪問し、住民の意見や要望を聞く活動」(33.5%)、「交番、駐在所における在所活動」(31.3%)、「交番前や交差点等に立っての警戒活動」(26.3%)、「事件・事故の発生や被害防止上のアドバイスなどの広報」(24.7%)の順となっている。
- ・性別で見ると、「事件・事故の発生や被害防止上のアドバイスなどの広報」では〈女性〉(28.4%)が〈男性〉(20.5%)より7.9ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、「地域で発生した事件の検挙」では〈男性20歳代〉が54.5%、「巡回連絡等で家庭等を訪問し、住民の意見や要望を聞く活動」では〈男性65～69歳〉が52.6%、「事件・事故の発生や被害防止上のアドバイスなどの広報」では〈女性60～64歳〉が39.8%と高くなっている。
- ・前回(平成23年)の調査結果と比較すると、「交番、駐在所における在所活動」が5.1ポイント増加している。

(4) 高齢者の交通事故防止のために必要な対策

問41 高齢者が交通事故の当事者になる割合が増えています、高齢者の事故を防止するため、あなたは何が必要だと思いますか。次の中から3つまで選んでください。

[n = 1, 356]

※3S（スリーエス）とは、SEE(見る)、SLOW(減速する)、STOP(止まる)の頭文字をとったものです。



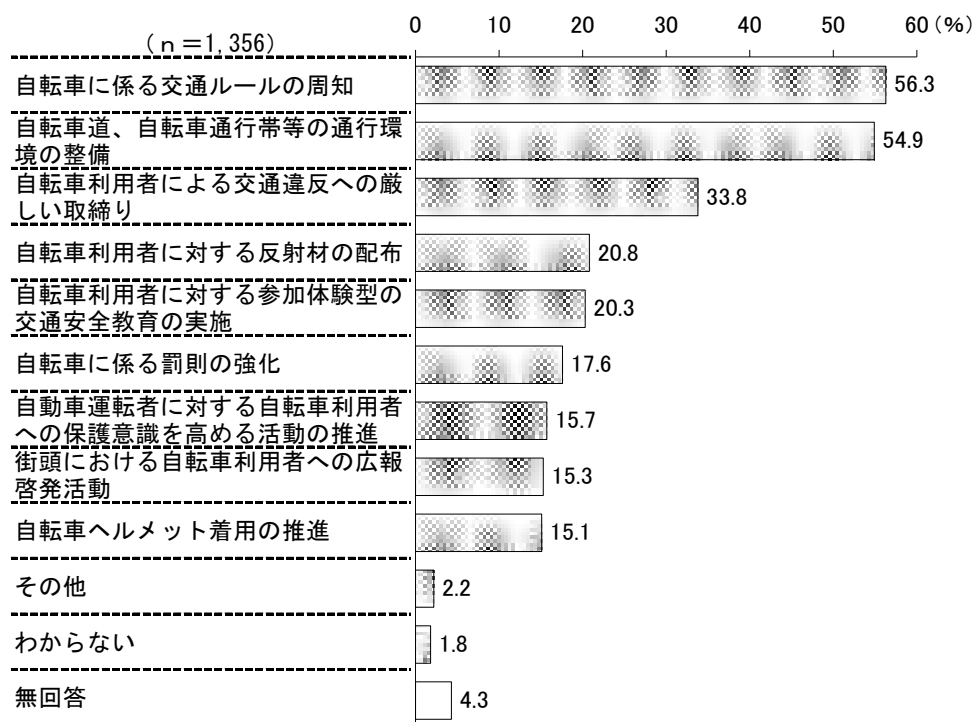
- ・全体でみると、「高齢者に対する参加体験型の交通安全教育の実施」（55.1%）が5割半ばで最も高く、次いで「『3S運動』等、高齢者に対する保護意識を高める活動の推進」（38.5%）、「高齢者に対する反射材の配布」（34.1%）、「高齢者以外の方に高齢者の特性を理解してもらうための交通安全教育の実施」（32.0%）、「高齢者関連施設等におけるワンポイントアドバイスの実施」（23.6%）の順となっている。
- ・性別でみると、「高齢者に対する反射材の配布」では〈女性〉（38.6%）が〈男性〉（31.5%）より7.1ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別でみると、「『3S運動』等、高齢者に対する保護意識を高める活動の推進」では〈男性60～64歳〉が51.8%と高くなっている。
- ・前回（平成23年）の調査結果と比較すると、「高齢者に対する参加体験型の交通安全教育の実施」が5.1ポイント減少している。

(5) 自転車の安全利用を促進するために必要な対策

問42 あなたは、自転車の安全利用を促進するために何が重要だと思いますか。

次の中から3つまで選んでください。

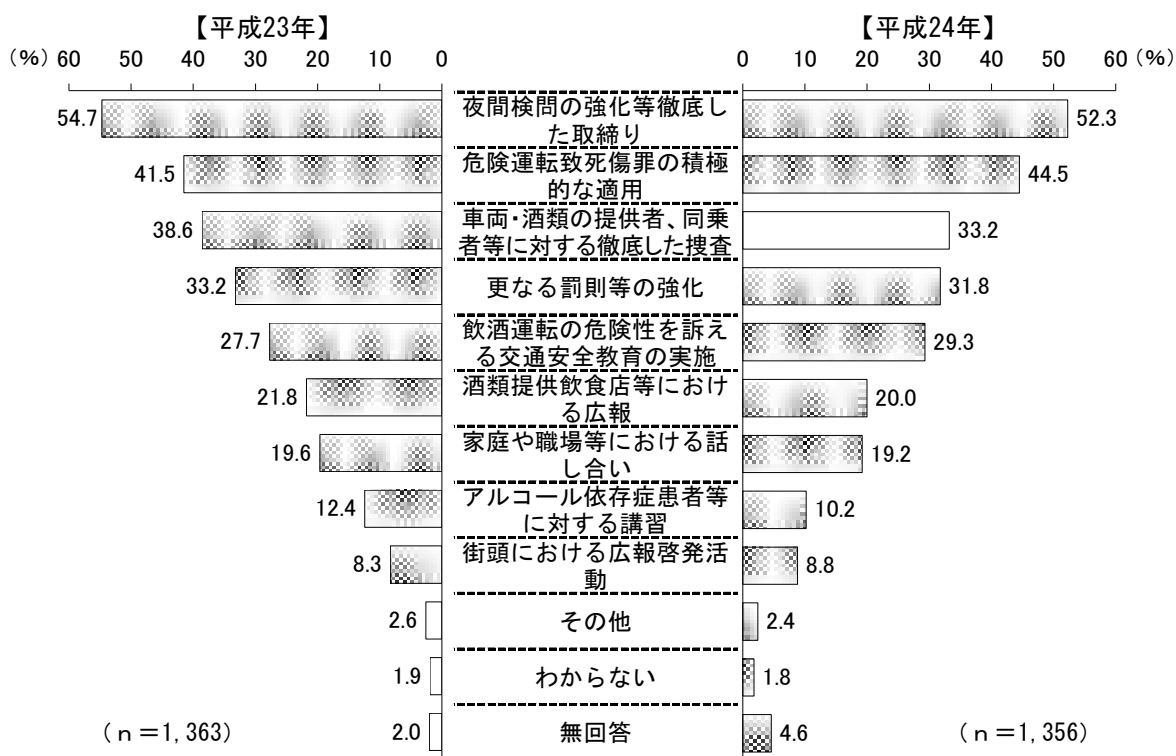
[n = 1,356]



- ・全体でみると、「自転車に係る交通ルールの周知」(56.3%)と「自転車道、自転車通行帯等の通行環境の整備」(54.9%)がともに5割半ばで高く、次いで「自転車利用者による交通違反への厳しい取締り」(33.8%)、「自転車利用者に対する反射材の配布」(20.8%)、「自転車利用者に対する参加体験型の交通安全教育の実施」(20.3%)、「自転車に係る罰則の強化」(17.6%)の順となっている。
- ・性別でみると、「自転車利用者に対する反射材の配布」では〈女性〉(25.8%)が〈男性〉(16.9%)より8.9ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別でみると、「自転車利用者による交通違反への厳しい取締り」では〈男性 20歳代〉が56.4%、「自転車利用者に対する反射材の配布」では〈女性 65～69歳〉が36.8%、「街頭における自転車利用者への広報啓発活動」では〈男性 60～64歳〉が30.1%、〈男性 65～69歳〉が30.8%となっている。

(6) 飲酒運転根絶のために必要な対策

問43 飲酒運転の罰則や行政処分が強化されましたが、依然として悪質な飲酒運転は後絶ちません。飲酒運転を根絶するため、あなたはどのような対策が必要だと思いますか。次の中から3つまで選んでください。 [n = 1, 356]



- ・全体で見ると、「夜間検問の強化等徹底した取締り」（52.3%）が5割を超えて最も高く、次いで「危険運転致死傷罪の積極的な適用」（44.5%）、「車両・酒類の提供者、同乗者等に対する徹底した捜査」（33.2%）、「更なる罰則等の強化」（31.8%）の順となっている。
- ・性別で見ると、「夜間検問の強化等徹底した取締り」では〈男性〉（56.2%）が〈女性〉（51.4%）より4.8ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、「夜間検問の強化等徹底した取締り」では〈男性60～64歳〉が63.9%、「危険運転致死傷罪の積極的な適用」では〈女性60～64歳〉が57.8%、〈男性40歳代〉が57.6%となっている。「更なる罰則等の強化」では〈男性40歳代〉が49.4%、「家庭や職場等における話し合い」では〈女性65～69歳〉で33.8%となっている。
- ・前回（平成23年）の調査結果と比較すると、「車両・酒類の提供者、同乗者等に対する徹底した捜査」は5.4ポイント減少している。

平成24年度

栃 木 県 政 世 論 調 査

結 果 の 概 要

平成24年10月

栃木県県民生活部広報課

宇都宮市塙田 1 - 1 - 20
電話 (028) 623-2158